健生病
七十歳の壽を

花の供養碑
昭和四十九年四月十三日建立
神戸市布引山・徳光禪院境内

もの言わぬ花の心をくみ、のべて
大きな愛の道を百年もひらかむ

維生院
華道家元
村雲華

兵庫県知事　貝原俊民

自然美の風雅な一雫〝いけばな〟とともに歩んでこられた佳生流が、創始七十周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

ふるさとの野に立ち、そよぐ風に身をゆだねていると、いまを盛りと咲き競う花や愛しい声を奏でる鳥たちと心を通わせた先人の心が伝わってきます。

古来、日本人は、美しくも厳しい大自然の摂理を畏敬の念をもって見つめ、その営みに自らの人生を重ねあわせながら、細やかな感情や豊かな心、明日への勇気を培って、ひたむきに生きてまいりました。

二十一世紀を間近に控えた今日、私たちを取り巻く社会環境の変化は大きなものがありますが、どのように社会やライフスタイルが変わろうとも、こうした花々や緑を愛し、自然との調和を求める『日本のこころ』を大切にしていかなければなりません。幸い、わが国の美しい自然と長い歴史に培われた伝統文化〝いけばな〟が、日々の暮らしのなかに息づき、人々の心の糧となり力となっていることは嬉しいかぎりです。

西村雲華家元をはじめ佳生流の皆さんが、「常に自然との対話を求め、人のいけた花の心にもふれ、自らの心を花の上に生かす」ことを信条に、〝いけばな〟の道に今後ますます精進され、多くの方々に深い感動とやすらぎを与えていただくことを祈念してやみません。

ともに力をあわせて、だれもが生きる喜びを実感できる〝こころ豊かな兵庫〟の実現をめざしてまいりましょう。

神戸市長

笹山幸俊

佳生流の七十周年誠におめでとうございます。

七十年とひとくちに申しましても、本当に様々なご苦労があったことと思われます。この長い年月にわたり、佳生流の充実・発展の歴史を刻み続けてこられましたことに深く敬意を表します。

特に、お家元であられます西村雲華先生におかれましては、昭和二十九年の兵庫県いけばな協会の設立当初から、流派を越えた多彩な文化事業を進めておられます。そして、昭和五十五年には神戸市文化賞を受賞されるなど、日本固有の伝統文化である「いけばな」の普及・発展に多大の貢献をされ、神戸の市民文化の発展にご尽力いただいておりますことに対し、改めて深く感謝申しあげます。

近年、生活様式の多様化とともに、私たちの価値観やニーズも多種多様になってきておりますが、花を愛し、自然に親しむ心は、いつの時代にも変わることなく、私たちの生活にうるおいとやすらぎを与えてくれる貴重な宝であると思います。どうか、今後とも、いけばなを通じ、神戸市民一人ひとりの時代の変化に左右されない豊かなこころを育んでいただきたいと思います。

甚大な被害をもたらしたあの大震災から、はや二年八か月が経過しました。神戸市では、被災されたすべての方々の一日も早い生活再建の実現に向け、全力で取り組んでおりますが、これからも保健福祉サービスを充実し、コミュニティづくりを進めるなど一層きめ細やかで多様な支援を行ってまいります。そして市民の皆さんが夢と希望を持ち、魅力と活力あふれたまちとして再生するよう、頑張ってまいりたいと考えております。

芸術・文化は人々の心の復興を担う大切な役割を持っております。皆様方におかれましても、身近に四季折々の豊かな自然を感じることができる豊かなまちづくりに向け、そして、一日も早い神戸の復興に、お力添えを賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。　最後になりましたが、西村雲華先生はじめ佳生流の今後ますますのご発展とご隆盛を祈念いたしまして、お祝いのことばとさせていただきます。

佳生流家元

西村雲華

兵庫県知事さん・神戸市長さんから素晴らしいメッセージを頂きまして誠に有り難う御座います。

先代翠雲先生が創始されてから七十周年を迎えました。そして私が昭和三十一年に二代目家元を継承してから四十年になりますが、私の華歴はそれ以前からで、六十有余年間花の道を歩んで来たことになります。田舎育ちの私は風と共に川の流れを友として歩んで来ました。先代の父は非常に器用な人でしたが、いけばなの宣伝など以っての外、流派のPRは汚れたもののように言っておりました。花の指導は約束事はきちんと守って教える真面目一途の人でした。私は母に似たのか、"やりすぎや"とよく言われますが、確かに私は昔の不言実行型の人間で、これが私の欠点と知りながら、よいと思ったことは何でもすぐやり通す性格です。今回も七十周年の記念行事として、いけばなに関係のない施設ですが、ネパールにトレーニングセンターを建設して、その貧困村ヌワコット住民が自立できることを願って、去る九月四日に現地で地鎮祭を行いました。来年五月頃完成予定です。更に来る十月二十四日には中国浙江省杭州市において市民とのいけばな交流大花展を開催するなど、世界を舞台に日本のいけばなを紹介するため、老骨に鞭打って頑張っております。夢だけは大きく、胸を張って邁進できる佳生流でありたいと、これからも命の有る限りチャレンジして行ければと念じているところです。小さい小さい佳生流ですが今後とも宜しくご指導ご鞭撻の程お願い致します。

尚、本誌「佳生流を語る」座談会には兵庫県の代表文化人の先生方をわずらわし、ご高説を記録、華道界の今後に対するご意見なども掲載させて頂きましたので、ご参考になれば幸に存じております。最後にこの回顧録の編集に当たられた方々の労に対し厚くお礼申し上げます。

日本いけばな芸術展家元代表作

▲東京支部会員の手助けで
日本橋高島屋作品制作

▲東京展作

◀Ⅱ双体いけⅡ

◀大阪展作

▶東北展作

(財)日本いけばな芸術協会と家元

▲高松宮御殿にて

▲日本いけばな芸術協会理事が高松宮邸庭にて園遊会

(財)日本いけばな芸術協会は昭和四十一年十二月五日、名誉総裁高松宮紀殿下をご推戴、理事長に勅使河原蒼風先生、副理事長小原豊雲先生の体制で千二百名の参加を得て東京、ホテルニューオータニで発会式が行われました。その時から家元は常任理事として重職につかれ、西部の総務を担当、全国的な諸流の西側をみて、花展や研修会を通じて親睦交流の実を挙げて来られました。昭和五十八年二月には副理事長に推挙され、その重責を果すため流内がお留守勝ちになるなど、ずいぶん迷惑を被りましたが、高松宮家における行事も多く、家元の糖尿病について大変ご心配になり、治療のご本をいただかれるなどお聞きいたしましたが今は代表参与で流内外のことを積極的に推進しておられます。特に70周年記念行事として、ネパール王国に佳生流の職業訓練所を建設・更に中国杭州市いけばな愛好者との合流花展を開催されるなど素晴らしい70周年を飾ることができました。

日本いけばな芸術展御覧の高松宮妃殿下をご案内の家元

霞華寛之元は全国各地での花展に出品され宮様をご案内された

いけばなにご関心の宮様と家元

▲常陸宮妃殿下（東京展）

▼三笠宮妃殿下（大阪展）

▲日本いけばな芸術展作（大阪展）

▼秋篠宮妃殿下

▼置花にご下問の常陸宮妃殿下

思い出のアルバムから

◀簡井紫雲、手鳴千俊、西村雲華三人展のときの雲華家元作

▶三人展雲華家元席 大丸心斎橋店にて

◀日本いけばな芸術京都展で雲華家元作（右作生花）をご覧になる常陸宮妃殿下

雲華近作

▲小原流家元小原豊雲先生回顧展に出品の雲華家元作（東京日本橋高島屋）「ダンネバード」ネパール語で感謝、戦後小原先生にお世話になり、共にいけばな界の交流発展を図ってきたお礼の気持ちを込めて。

佳生流を語る

出席者

小林武雄
詩人
半どんの会代表

岡澤薫郎
俳画家
元県会議長

山本敏雄
彩花主宰
元兵庫県文化局長

大橋良三
日本画家
兵庫県日本画家連盟会長

西村雲華
佳生流家元

西村公延
佳生流副家元

高井翠花
佳生流理事長

粟津信子
産経新聞記者

佳生流家元との出会い

司会　本日司会を勤めさせて頂く粟津信子です。不馴れですがよろしくご協力お願いします。最初に家元から佳生流七十年のあゆみについてお話し願えますか。

雲華　本日はお忙しい中お繰り合わせご出席頂きまして有難く厚くお礼申し上げます。佳生流へと改名いたしましたが、通算して今年七十周年を迎えました。これに伴う諸行事の一つとして、十月一日から神戸ハーバーランド阪急百貨店で記念花展を開催いたします。そこで佳生流のあゆみとして、本日の座談会を掲載させて頂き、佳生流についてと華道界の今後のあり方などに役立てばと存じ先生方を煩わしたわけです。今日までの佳生流のあゆみ概要につきましては前もって資料をお送りいたしましたのでご承知頂いていると思いますが、一応説明いたします。

（＊説明　紙面の関係で省略）

司会　岡澤先生は家元と同郷と聞いておりますが、家元との出会いは。

岡澤　昭和五、六年頃だと思うのですが、私の姉が先代翠雲先生に習っていたことがあるんです。この頃の昌鳳院流の先代さんは今の雲華さんと同じように物静かな、袴をはいてうちに来られていたのを覚えていますが、それからは私が東京に住んで大学時代ですからよく知りませんが、先代さんはがむしゃらになさらない方ということしか記憶にありません。

現代の雲華さんになって全国的な佳生流に発展、成長され流派として完成されたことの努力に対して敬服している一人ですが、特に立体的な佳生流独特の型を構成され、又その姿が現代の生活様式に受け入れることの出来るように色々と研鑽を積まれたことに対して敬服の念を表わすものです。

司会　小林先生と家元との出会いはずいぶん古くからと聞いておりますが。

小林　「新日本華道五十年の歩み」を頂戴して、雲華さんとの出会いを振り返り、敗戦後のあの焼土の中からふるさと復興に、各界あげて必死に闘ってきた往時を回想しましたが、茫々などという記憶の中で煙らせてしまえない大切なことやものがいっぱいありますね。モダニズムとヒューマニズム復興と信頼とでもいいますか、新日本華道などと、戦後生花界の潮流でもあった前衛花を真っ先に唱え、会下山の焼土に桜を植樹して地域活動に率先、兵庫県華道公募展を参画するなど、池坊、未生流など有名な伝統花の活動に呼応するかのような行動に、その頃、ミニコミの記者であった私の知人を介して、雲華さんを知るようになったのですが、特に注目して親しくさせて頂いたのは、格花「新潮花」を制定されたことでした。昭和三十二年発行の「半どん」No8に〝新しい造型へ〟という一文

を寄稿されており、新潮花制定がなま半かな流行性によるものでないことがわかる。しかし識りあったのは昭和二十五年頃で詩人集団「火の鳥」時代、私自身が諸活動が最も充実していた時の出会いで共鳴したのであろう。「半どん」に相次いで原稿を寄せられているのをみてそれがわかります。サントリーが初めてビールを売り出すために京阪神の文化人の集いを相楽園で催し、これが「8の会」となって小原会館で年一回の催しとなりましたが、無名に等しい一華道家が、新日本を称して格花を制定するなど、余程の自信がなければ、これらの大流派に埋没するか消滅していたでしょう。

岡澤　雲華さんは写真家でもあり若干絵もやられる、その様な中から佳生流といういけ花の姿はどうあるべきか、他の人と違った観点から生まれてきているのではないか、このように思うのです。それは草月流の勅使河原蒼風先生の中について勅使河原先生は油絵の先生だったのです。その勅使河原先生と一体となって物事を何でも二人で考えておられた方に土門拳さんがおられまして彼は写真の大家でその土門さんが蒼風先生に付きっきりで草月流をどうして行くべきか色々と模索されていた頃のことをよく知っているだけに、雲華さんが絵や写真をされていることが原動力の一つになっていると思うのです。そういうことで進んで来られた雲華さんが舞台装飾もやられるということは全く勅使河原さんと同じ道を歩まれているように思います。

司会　大阪の場合いけばなについて行政はあまりタッチしていないようですが、京都は最近熱心のようで…。山本先生は兵庫県の文化行政を

担当しておられたので雲華先生やいけばなとの関係は深かったと思うんですが。

山本　行政といけばなとの関係ということですが、兵庫県の場合は、昭和五十年に文化局が出来た頃からでしょうか、雲華先生はそれ以前からよく存じておりましたが、仕事の面ではその時からだと思います。兵庫県いけばな協会が昭和二十九年に発足しておりますから、それまでは社会教育課の所管になっておりました。何分七十六流派という全国的にも珍しい大組織でありましたから。協会自身運営には相当ご苦労があったと思いますが、私が担当していた行政では特にいけばなのお手伝いをしたというよりか、お世話になって文化行政に華を添えて頂いたくらいで、いけばなの発展にとか、特に佳生流の問題について力になったというようなことはなかったように思います。

司会　雲華先生との交流の中で、何か思い出がありましたでしょうか。

山本　国際交流の話では、アメリカワシントン州と兵庫県が姉妹提携二十五周年を迎えたとき、私もシアトルへご一緒しましたが、他の文化団体が絵や書といった作品を展示するのに対し、いけばなは生物という花材を持ち込まねばなりません。それが検疫など面倒な問題も多くまた現地で花を入手出来たとしても生け難いなど大変な苦労があったと思います。あの時は雲華先生はご自分で山に入って木を切られたと伺いましたが、それも自然破壊につながるということで州政府の許可をとられるなどかなり蔭のご苦労が多かったと思います。それだけに花展がオープンしたときは本当に感激しました。

雲華　今おっしゃったように、アメリカは特別植物の持ち込みに対して検疫がうるさいところで、私は皆さんより三日先に行って現地調達したのであれだけの花展（三十作）が出来ましたが、公延が後から持ってきた花材は結局検疫で間に合わなかったのです。何れにしてもいけばなは水物ですから一寸の心の隙も見せられない、最後まで花と一体の仕事なんです。しかし現地調達も大変で、山に行くと言っても車で三時間くらい走ってその管理所の許可をもらってやっと入るんですから疲れますよ。

山本　シアトルで家の庭のものを採集されたとか伺いましたが。

雲華　そうです。江頭さんといって、佐賀県出身のお宅でした。貝原知事夫人と同郷という事が後でわかって、会場でお二人の出会いがあったんですが、その江頭さんのお庭（千坪）のものをずいぶん沢山切らせてもらいました。ネ

パールなどはその点持ち込みが楽々です。

山本　オーストラリアはもっと厳しいようです。

雲華　そうですか、絵や書や写真などはそういう点何の心配もありませんね。

司会　以前大阪市と提携記念いけばな展でレニングラードへ行ったとき、前に来られたある流派の方が白樺の木を切って造形されたとかで、ずいぶん問題になったと聞きました。草花物はよいのですが木物が問題のようですね。

雲華　行政のお話が出ましたが、兵庫県では県と神戸市とそれに神戸新聞社と協力が四者一体となっての諸事業を創立当初から推進しています。他府県では見られないあり方で、組織の面でも先手先手でいろんな仕事をやってきました。

司会　文化事業はそういう点で兵庫県は恵まれておりますね。

小林　雲華さんはよく勉強してましたね。若い連中の会で前衛がどうの、抽象的な作品がどうのこうのと問題を話している場の中へ雲華さんが必ず出て来るというある意味でのうるさい存在でしたね。自分は新しいいけばなの変遷ということに何時も関心を持っているという人でした。雲華さんが勅使河原さんのように東京在住の流派だったらなーと思うことがいっぱいある、神戸に居てずいぶん損をしていますよ。

司会　仕事のし過ぎですね。

小林　そうですね。そうかと思うと何時の間にか写真をやったり、又兵庫倶楽部の写友会で大橋先生と共に写真をやっているし、字を書くしね、何をしているのかなーと思うくらい多彩な人で…。でも本流はやはり花の美に対する積極的な知的なものが体に充満しているような人です。

雲華　そんな人間じゃありませんが、いろんな事を体験して初めて花の心がわかるという、そんな気持ちを常にもってやっているんです。

岡澤　佳生流独特の花もそんなところから生まれ現代人に関心が持てるよう研究され出来上がった花ですが、先生は我武者羅に宣伝していくというようなことをなさらないから、若干押されておられるかも知れないが、地道に斯道を正しく歩んでおられるその基礎は力強いものであり、又人々に受けることの出来る組織の構成が見られ、そのようなところに七十年の苦労があるけれども大変結構なことです。佳生流というのは、家元先生の性格そのものが滲み出ていると思います。地道に堅実な道を歩まれている、これを三代目へと継承されようとしておられることは結構なこと、それによって全国的な流派として、いけばな界に姿は小さくても胸張ってどこにも負けないんだという誇りを持っていかれてもよいだけの組織になっていると思います。或る流では大きな組織を背景に利用して虚勢を張っていろんなことを宣伝に使ってのし上っている流派が見られるけれど、芸術とはそんなものであってはいけない、そのような点について比較すれば佳生流は地道であるけれども魅かれるものがあります。

司会　大橋先生は日本画家連盟の会長さんであり、雲華先生のご友人でもあるので、両方の立場からお話し下さい。

大橋　雲華先生や高井先生とは神戸高校での出会いで、他の人よりも親近感があるわけです。雲華先生が生徒を指導されるお姿は、単に流派をひろめようとか、生徒のための収入を得るというのでなくって、花そのものに対しての一つの理念というか愛情をもって教えておられる。私の娘も高井先生にお世話になって師範まで頂いたのですが、私も自分が思い立った事は徹底的にやらねば気のすまない性分ですが、雲華先生を見ていて敬服することは、途中で決して頓挫しないで、徹底的におやりになることです。いろいろのスケジュールを拝見しても、切り目、切り目に道しるべのようなものをちゃんと作っていらっしゃる。普通に花を切って押し花のような事をやるのなら、誰にでも出来ましょうし、あれは平面的なもので、実際に現地にある花材を使って、造形的なものを加味して生けられるセンスは、一寸及びもつかないことだと思うのです。雲華先生が海外で花展をやり、現地の子女に生花を指導するスクールを建設する計画をされることは、先生の人間的な面と、指導者としての立派な卓見と才能を持っていらっしゃる。そのくせご本人は案外気楽に飄飄として、一緒に旅行しても生きた花を、山に咲いている花を見て、それを自分なりに組立てながら写真を撮っていらっしゃるのです。それを私が横から望遠でねらってみる。――物凄く楽しみな人ですね。人間としても飽きのこない人だと思います。

今も家元としての激務の中で、神戸高校での指導は続けておられ、入学式や卒業式などに飾る講堂の花を立派に生けていらっしゃる。又その費用が幾等掛ったということも一切何も言われない、立派なものだなーとそんな事を思っています。

雲華　今大橋先生から身にあまるお言葉を頂いて恐縮しておりますが、私は口下手で思うことが言えない性分ですからつい無口になってしまうので、そのように見られるのだと思います。

司会　ご自分のことだけでなく、華道界全体のことを考え、それを先取りして超流派的なことは勿論のこと、これだけの足跡を拝見（略歴を見て）して驚いたのですが。

雲華　いや、「日本いけばな芸術協会の仕事をしていた頃、地方での会合などのときは、それぞれに自分の流派の主張が強く、大流からの圧力には困りましたが、今はそうした流派間の垣根がなくなり、お互いに理解し合うようになりました。

司会　雲華先生との出会いは産経新聞におられた先輩が日いけの仕事をしておられた頃で、私はその後任としてはじめていけばなに関係ができたんです。いけばなの事はまるっきり白紙でしたから先生にいろいろ取材をさせていただき感謝しています。

小林　私たちの時代はお花は学校などでは蘭物などと同じように縁入り道具として教えていた、また女のたしなみでいけばなはやっていた、だから僕等はたしなみとしてしか華道家を見ていないからこんなに発展するとは思わなかった。芸術家として見たのは戦後の事で、その頃の雲華さんのお弟子たちをよく知っていたが、今は瀬良さんと小西杏花さんくらいかなあ…。家元は何も言わないが相当きつかったらしいね。

高井　きついと言うんではなく、ついて行けないんですよ、あらゆる意味で…。

司会　高井先生、佳生流になってから特に何か違った思いがあれば。

高井　自分の仕事に情熱をもち、時代を先取りして常に前向き、思いついた事は即実行のお家元は本当に敬服に値する方で、誰も真似ることは出来ません。「より良くなるのだから」とすぐに変更される事しばしばで、突然「佳生流」に改名された時はとまどい悩みました。「それでは今までの私達の努力はどうなるの」と言いたいのですが、余りにも気迫のある姿勢に押し切られ今日に至っています。

多才なお家元は新潮花、構成花にとどまらず、一方では新生花、雅風花、置花と次々花種を網み出し改良されてゆく。相当熟練の教授者も夫々を正確に把握してゆくのは至難のわざ、諸流展ではよく佳生流の花の特徴がなくなったとかOBからはなじみのない花ばかりでという声が聞かれる。消化しきれない花を出瓶する事になるからでしょう。数ある花型を次代に伝えてゆくだけでも私達教授者の一層の研鑽が急務だろうと感じています。

伝統とは伝承ではない。伝統を引継ぎ、それをふまえて新しい創作をしてゆくものだと思います。しっかりとした基礎知識の上に立ち、生

きものを素材として扱う心がまえを身につけて創り出された作品にふれた時、いけばなの芸術性が高く評価されるのではないでしょうか。

雲華　今高井が言った佳生流名変更は前理事長故河合三雲（素晴しい心の広く立派な人）時代のことで、充分話し合って皆さん納得し、非常に喜んで頂いたことで、あの当時を振り返ってみますと本当に皆さんの目の輝きを感じました。私の日本いけばな芸術協会の副理事長のときで、この機以外に好機なしと判断してやったことです。と共に流花の制定を行うなど大変流内にとまどいもあったと思いますが、教授者たちの多くは私の指導からはなれて独立して今やっていますから年四回くらいの研究しかやらないので消化不良は無理ないことです。次元の高い花ですから、感受性、創造性、テクニックが共に備わった人間でないと無理、形は出来ても心が伴わない、だからつい一般にやっている花を手掛ける、佳生流の特徴が見られないという結果になってしまうのです。我を捨てて初心にかえり研鑽に専念することが何より肝要なことですが、人間は自信過剰が禁物ですね。

岡澤　以前からすれば花屋は沢山増えているのに、いけばな人口は減っている。花を装飾の一つとして日常生活に取り入れているという点では、非常に花屋は増え、生産量も増えているのにいけばな人口は減っている。これはいけ花界の家元以下なまけた証拠であると思う。今の娘さんは大学を出て皆それなりの知識を身につけている人ですから、昔のままのけいこに満足する筈がない。それらの人よりも頭の古いままで指導者になること自体おかしい。その点では雲華先生も非常に苦労されてきたと思う。

今はもう床のない家が多い。その中でいけ花をどう扱ってゆくかの研究が、いわば時代の流れに添った研究がおろそかにされたのではないか、知識もあり、音楽、絵画にも興味をもち色々と研究して新しいことを考えた人に横取りされているように思う。昔の嫁入り道具と同じようなことをしていたところに問題がある。つめると師範の安売り、粗製乱造の師範を多く作ったこれが大きな理由だと思う。

司会　そうですね。いまの女性達は働いている人が多いですから華道人口がピーク時から減少していると聞きます。この辺でいけばなのよさをというか、自然を見つめなおしてみてはどうか、いけばなは心の形だと思いますから、基礎をしっかりと先生に習った上で、現代の生活の上に生かしていく時代が来ないかなと私はしきりに思うんですけれど。

岡澤　毎月何回か師範を寄せてその教育をして来た草月流を見るにつけ、そうしないと今の生活様式に合わないんだと思う。今の人がどういう動き方をするかを人一倍研究して見ているのだからなまやさしい家元ではついてゆけないと思う。

山本　私の友人で、ある新聞社の社会部に勤めていた人がいるのですが、病気入院しました。仕事に追われ花など全く無関心な男でしたが、見舞に頂いた花を最後の一輪まで咲かそうと病床で一生懸命に考えたんだそうです。それから花の命というものを身をもって知ったのでしょうか、退院してからは一輪の花もなかった家の庭に四季折々の花を咲かせるようになったと聞きました。花というものが人の心に温かい灯をともす――とはこんなことかと思いました。花というものはもっともっと人間の社会のあり方をもう一度考え直させる機会になればと思うのですが…。

司会　私も同感です。明日何が起こるかわからないというトゲトゲしい時代です。今一度原点にもどって、男女を問わずいけばなをやってほしいと思います。お花を見れば心がなごみますものね。

小林　花を愛しておればあんなややこしい子供が出来やへんのに。今山本さんが言われたことも、一輪挿しのような花、荒地に花一輪の感動は皆んなが持っているわけで、モダニズムはそういうところにある、日本画で日本人の絵として日本人が伝統的に持っているものがあるので

大橋先生などは本当に純粋な絵を描きたいという点で、それを守ってきた人という尊い人だと思う。山本さんは花の絵としては他の人たちの「花絵」と違った花に対する感性をもっている特異な存在である。雲華さんは才能のひろい人で好奇心が旺盛だから華道家のくせにモダニズム精神からいろんな分野で積極的に活躍、また教えるのも上手だけど、これからその新しいものを何に見つけて行かれるかわかりませんが、華道でも一字だけ書く書の美と同じように、一輪の花の美をいける人が出て来ると思う。嵯峨流の吉田泰巳さんがそんな花をやっているが、あれは花の美に疲れを見つけたのと違って芸術家としての自己の存在をいま、問うているのでしょう。あのように雲華さんがなるか一寸わからんけどね。

雲華　私は昭和二十七年頃すでにやってきたことです。東京のある大学教授でいけばな評論家がその花を見て、あれは「花器いけ花」だ、いけばなと違う、大半が花器の美で花の心の美でない、と言われてから止めましたが、良かれ悪かれ大流派なり、大きな背景があればどんな事でも押し通せるのが世の中ですから、それはそれで良いことだと思います。それから新潮花を創造したのです。この花はおそらく華道界ではじめての新しい花への基本花だったんですが、発表以来数年の間に真似花が大変多く見られるようになりました。新潮花と言う名称でなく、新花だとか、相変わらず盛花、投入花の名称でやっていますから如何に伝統と流派の重みに左右されるかを体験しているところです。時代が移り変わるともいけばなの伝統美を忘れていけばなはあり得ないと私は信じてやっております。

司会　私は六甲で震災にあい、物はみなこわれてしまいましたが、その中で一番うれしかったのは、頂いてベランダに置いていたシンビジュームの花芽が出て来た、それを見たときの感動は忘れられない喜びで本当に心がなごみましたね。植物ってこんなに有難いものかと勇気が出てきました。近ごろ沢山の花展を拝見する機会があるのですが、感動が伝わってくる花が少ないように思うのですが何故でしょう。もっといけばなを見る人に感動を与える内容のあるいけばなを研究して頂きたいとこの頃しきりに思うんです。

山本　やはり見る人の心に訴え問いかけてくるものがないと感動しませんね。私花の絵を描いていていつも思うのですが、やはり描きたいと心に迫る花はいい作品になっているように思うのです。それがまた、見て下さる方にもわかってもらえるように思うのですが。

司会　雲華先生はいけばな以外も書も絵も写真もと言った多彩な活動をしておられますがお元気ですね。

雲華　三十年もキャリアの糖尿病生活ですが、甘党、辛党で医者から見離されておりますが、何とか生きております。目が肥えてくるとこれまで感動していたものもまたかと思うようになり感動が薄らいで来ますね、それだけ自分が成長したことになるのだと思います。珍しい輸入花に対する感動もそれだけで、今頃珍しいという感覚がなくなりましたからね。

司会　近ごろは学校のクラブ活動も入部数が少ないようですね。

雲華　駄目ですね。戦後は大変な人気でした。二クラス八十八人くらいが交替でやっていた事もありますが、今はスポーツ、洋楽などが盛んです。この間もオーストラリアの生徒が見学に来て、先ず日本のいけばな、茶道が見たいとの注文でしたが、日本の伝統文化には日本人より外国人の方が興味をもっているようです。日本の若い方々にもその良さを再認識してもらって生活のためにも役立てていただきたいと思いますね。

司会　学校なんか文部省がもっと指導して、心の問題を取り上げてほしいものですね。変な事件を避けるためにも。

高井　私も以前神戸高校の華道部の指導に行っておりましたが、学校の玄関には何時もお稽古で生けた花を置いて全校生徒の目に止まるよう

に置く台がありますが、大変好評で今は各所に置くようになっています。学校はボランティア活動で大変ですが、校外活動で丹波立杭で土ひねりをしたり、生徒と一緒に裏山で花材採集をして取り合わせの研究を現地研究したりいたしました。そうして少しでも花に接して欲しいという私の願いと熱意を肌で感じてくれた生徒達が大学卒業後も引続きいけばなに携わり、今では立派に指導者として活躍してくれています。

小林　国公立美大なんかで、いけばななどやっていたんですかな…。

司会　短大のある嵯峨御流や池坊なんかは盛んでしたが、ひところに比べると生徒数は減っていると聞いています。海外旅行で見聞をひろめるのもよろしいがもっと足元を見てほしいですね。

高井　男の方も非常に熱心に習っている方がおられますが、男の方は、自分が旅行先で花器をみつけて来たり、花材を買って来たりして女性とはまた違った研究心があるようですね。

司会　山本先生の生徒さんは。

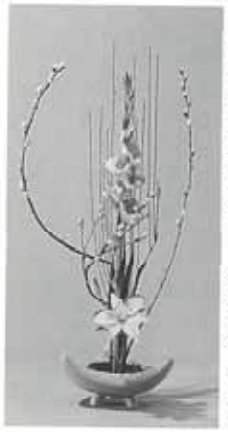
山本　私の方は百人が百人共女性の方ばかりです。大方は子育ても終り自分の趣味、いきがいを見つけようとする人たちです。

雲華　話は違いますが、私は岸田、坂本、金井、坂井、貝原と五代の知事さんの代で仕事をしてきましたが、何れの知事さんも文化人で、特にいけばなには関心を持って頂いて思い出も一入深いものがございます。

山本　私もそうなんです。四十年余り役所勤めをしていましたから、歴代の知事にお仕えしましたが、なかでも金井知事さんが公舎の庭に花壇などをつくられるのがあまりお好きではなかったようで、雑草もまた自然のよさがあっていいものだと伺ったことがありました。詩人の富田砕花先生のお庭も同じで、初夏には白い花ニラがところせましと咲いていたのを思い出します。

司会　副家元の公延先生にお尋ねします。これまでお家元のお仕事についていろいろと思いがあると思いますが。

公延　そうですね、仕事熱心な人で、家の事は二の次です。素晴しくバイタリティのある家元で、有無を言わさぬ後ろ姿を見て我々は育ってまいりました。あまり横道にそれなかったのが正直なところです。けれど親の後ろ姿を見て子供は育つというものの、人間すべてが満足できるものではなく、何処か素晴しいものが一点あればそれが魅力となり、皆を引きつけるんじゃないかなぁ…。それよりも、これからのいけばなというものがどうなってゆくのかということが、僕にとっては凄く不安なんです。最近カルチャーセンターなどで募集しても、料理教室だとかカラオケなどは人が集まりますが、いけばなは集まりにくい、若い女性の多くが洋花嗜好に移っているのが影響しているようにも思います。ポッと野に咲く花をめでる日本人の本当の心を大切にしてゆくいけばなを指導していきたい。いけばなという言葉だけでも世界に通ずる現代ですから、これが何だかゆらいで行くような感じがして仕方ないんです。勿論時代と共にいろんな花を取り入れないといけませんが、いけばなの根本である伝統的なものをもっと大切にした形で、まわりが如何に変わろうとも本当の意味でのいけばなを守って行きたい。いけばなが大衆的な芸術であるだけに一層ゆらぐ率が高いと思います。フラワーアレンジメントやデザイン花に目を向けないで、いけばな本来の伝統ある姿を見極め、その良さを伝承していくのがこれからの佳生流のあり方にしたいと思っております。



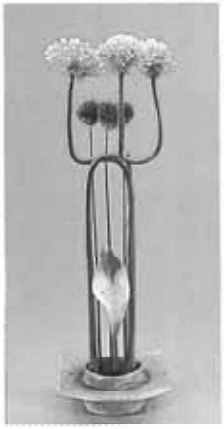
司会　佳生流の花展を拝見すると家元の作風と公延先生の作品とはまた趣の違った作風が感じられて楽しめますけれど、開発が進んで自然が遠くなっていますね。ちょうど野の花をいけると言っても、昔のようにまわりに花がありませんしね。それに今は赤道直下からも花が入ってくる。五十何ヶ国から花が輸入されていて、日本でこれが改良される品種も多いとか。だんだん多彩で豪華な花が売られているのが現状のようです。

公延　河川工事なんかも、これまでは水害対策一辺倒で護岸工事が自然破壊してきましたが、最近では生物、植物を守ってゆこうという心遣いがなされるようになりました。鹿児島出水の水害を見ますと自然そのままでと言うわけにはいかない部分もありますが。野に咲く花の美しさを自分の体では受けとめられなくなっている時代ですから、あれがこうですよと言って説明してもそれが理解してもらえないという大きな不安があるんです。

司会　それでは最後にこれからの佳生流に対して、また華道界に対する先生方のお考えを一言ずつお願いしたいのですが。

岡澤　三代にわたって七十年間雲華先生が小さいながらも、一つの流派として築かれ今日に至ったことはよくやられたと思います。これを時代の流れに遅れないように、生活様式に合ったものを確立されたのですからね。昔は薄端と水盤しかなく、それに合うように生ければよかったが今は違う。いけばなは立体芸術でありそれを頭に含み込める人でないと立体芸術はこなせない、この頃は花材の多様化で、きれいな花材をきれいな器に入れると誰が見てもある程度はきれいに見える、そのときにいけばなの美と違うことをきちんと教えるべきです。昔の人にそれを教えても理解できる者は少ないでしょう。しかし今の人はそういうことがわかるから、それを古い頭で教えていたのでは、生徒はなめてしまい、物足らないから去ってゆく、それらの人をとられて、はっきりとした指導ができるよう先生方自身の勉強が必要だと思います。

私は草月流の師範を持っているけれども非常に教えることは難しいと私自身思っている。理屈はわかっていても実際にやることは難しい、昔少しやってそれだけでいけばなの先生をしているだけでは人は従いて来ない。先生方も勉強を重ね、移り変わりの激しい時代、これまで無かったような材料が出て、同じカーネーションでも改良して姿を変えるように、その道はその道で非常に努力されているんだから、これからは先生方もそれなりの覚悟をして行かなければ落ちこぼれてしまうと思う。



七十年間一つの道を守り続けてこられたことは大変なことです。しかもそれが小さいながらも自分の流派として認められるとこまで来られたことは大きな功績であり、同じ姿で現代的に三代、四代目へと続けられようとしている、これがどこまでも続きますようにと願っています。

山本　いまは時代の流れが激しくあわただしいときですから余計に足元を今一度しっかり見直してみることが大切なように思います。

「よく見ればなずな花咲く垣根かな」の句のように、少し立ち止って自分自身からその周辺を改めてゆっくり見つめれば、これまで見過ごしてきたものがまた見え始めるような気がします。それにつけても、いまは「見る」ことから「見つめること」、さらにはみんなで「見つめあう」ことの大事さを痛感しています。もう一つには、いけばなは芸術文化には違いありませんが生活様式の視点で考えてみる必要があるのではないでしょうか。いけばなは本来床の間や玄関といった場所に活けられ、愛でられてきましたが、私の絵でいえば、台所や食堂、洗面所といった生活の場を飾りたいと思うのです。いけばなもいま一度、暮らしの中のいちばん身近なところから、人に見せるための花ではなく、自分や家族の心のうるおいになる花として考えてみてはと思います。

大橋　先日上村松園先生、松篁先生、淳之先生の三代展を見ましたが、どんなに松篁先生が頑張っても松園先生の芸域には達せないだろう、あの精神的な高さだとか、技術的なものは松園先生のものであって松篁先生のものでない、松篁先生が大成されて、松園先生と同じ文化勲章をもらわれたのは、花鳥画にご自分の世界を創

造されたからだと思うのです。

雲華先生はお父さんのことを考えて懸命に新しい流派を築き上げようと仕事をされて来られたことは尊敬に値するんですが、この場合ご自分の子供の事を思って動いていらっしゃったとは思えないわけです。公延先生のお話を聞くとその通りで、子は親の後ろ姿を見て育つと言いながら親の後を全くそのままついてまわったら本当の芸術は生まれないと思います。私は親と違う道を行って良いのではないか、その方が発展性があると思います。昔私は前田青邨や安田靫彦先生の絵を見て、その線に引かれ、デッサンに引かれてやってきましたけれど、現在の私の画は決して真似絵ではないと自分では思っております。そういった意味で佳生流も公延先生がおっしゃった事を自分の仕事として、お父さんと同じ道を歩まなくてよいから必死の思いで活動してゆかれることがこれからの佳生流の発展につながるのではと思います。雲華先生と公延先生とは全く異なった道であった方が本当の意味の素晴しい芸術が生まれると思います。

私の作品を今見ると、三十代と五十代との絵、今八十代の絵をくらべて見ると、三十、四十は未だわかりません。五十代になってはじめて線の力があったなあーと感じ、八十代を比較すると負けるんです。しかし私自身の受け取る感じ方が、やはり八十代の味わいがでてきたように思う。こう考えると、自分の道を一生懸命に進むことが、日本の花、いけばなということの原点に到達する素晴しい道だと思います。

公延　日本のいけばなは過渡期にきていることを痛感しています。何とか一輪の花の美しさを強調したいけばなを創造したいと考えております。華やかな花は誰がやってもできることで、いけばなは別の世界です。素々とした花へのあこがれ、これが日本人のもっている精神だと思います。フラワーアレンジメントはヨーロッパの風土が作り出したもの、日本ではなじめないのではないでしょうか。

大橋　ヨーロッパのあの宮殿を飾るデモンストレーションでなく日本の家に、暮らしに合った一つのモチーフであるべきでしょうね。

公延　生活様式が変わってきましたからね。床の間がない、玄関に入っても全然違った感じになりましたから、多少の妥協も必要ですが、要するに生活に密着した日本のいけばなであるべきだと思います。

司会　花を愛するというあたりから今一度花を見つめ直す必要があると私も思います。その辺から小林先生佳生流の今後に望むものは如何でしょうか。

小林　日本画家が、バラか牡丹かと言えば皆牡丹を描く、洋画家はバラを描く、日本人は日本人の嗜好に合った花の絵を描く。雲華さんの新潮花は完成されたもの、新しい花の基本として完成されたわけで、雲華さんは新潮花という花への哲学をもっている、公延さんがそれを真似する必要はないと思う。それ以上の日本の花というものを強調してほしい。外国の花でも日本の花でもよい、いけるのは日本人だと言うその日本人の精神とは何だろうと日本の華道を今一度短歌や俳句などと同じように洗い直した方がよいと思う。一本の花の美しさというものがどういうものか、日本人がどういうふうに花と対してきたかと言うことを。今日本の言葉についても云々されているが、日本の言葉を大切にしなければ日本は亡びてしまう。環境がやかましく言われている折に、大きな木を切っていけるなんて、何が日本のいけばなだと言いたくなる。やはりいけばな用に生産されたものを用いている天地人の花、あれは守ってゆかねばならんと思う。そこで雲華さんが新潮花を創作したんだけど、佳生流としての新しい形式の花として伝承すべきである。公延さんは若い連中とやっているけれど、あなた自身の個性をもったいけばなをやってほしい。習う人が来ても来なくてもよい、他の人の真似の出来ない花をいけること、これが本当の芸術作品であり、華道作家としてはそうあるべきだと思う。

雲華さんは伝統とか、お寺などを背景にした何ものもないところから出て来てあれだけの華をやってきたわけで、しかも新潮花というものを創造したのです。いけばなの新しい道を切り開いた雲華さんが東京に住んでいたらと、もっと大きな仕事もできる人になっていたと思う。

司会　高井先生如何ですか。

高井　私は県一当時からお家元に師事いたしましたが、その頃から「自分で考えて自由に生けなさい」という指導が魅力で今日あるわけです。また昭和二十六年頃、お家元の企画で兵庫県展が当時の三越百貨店で、はじめて諸流のいけばな審査展が行われたとき、私も優秀賞を頂いた思い出があります。また他流の人も是非参加して新しい花の研究をしたいとの申し出があり、家元宅や他の会場で流派を越えて指導されていた時代がありました。そうした自由に造形するという魅力が私の今日あるところです。花展では女性らしい造形作品を出瓶しています。素材のもつ美しさを活け手がどのように発見してゆけるかが大切で、自己の感性を磨く努力をこれからもお家元のそうした姿勢を伝えてゆきたいと思っております。

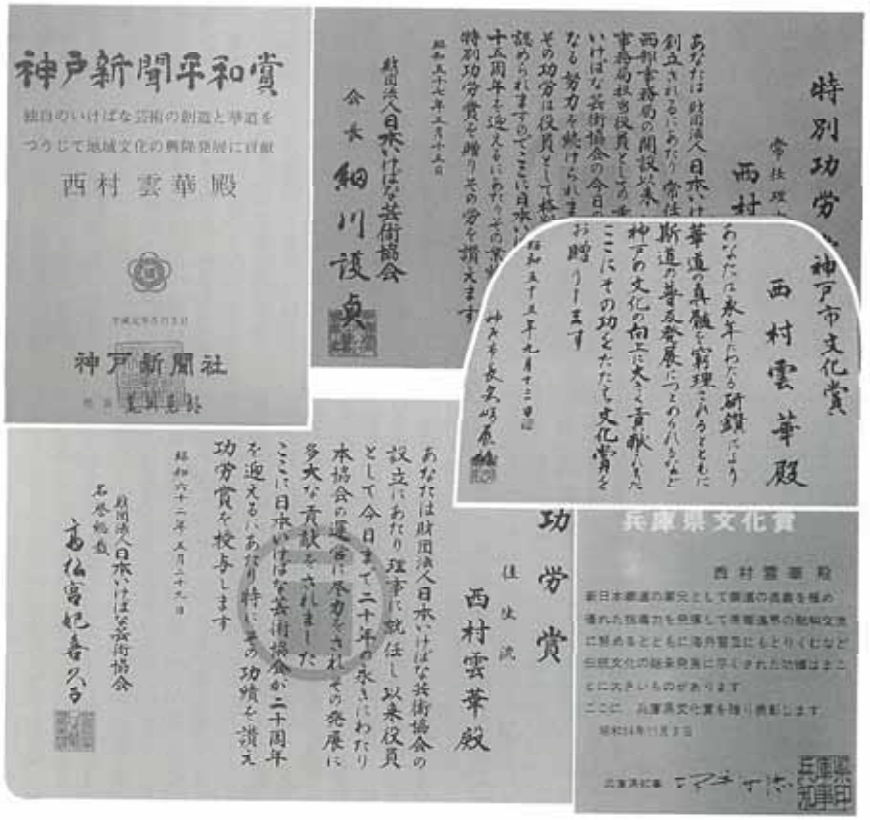
小林　今ふと思ったんですが、私が親しくご交際を願っている加古川流城、特に上流の西脇出身の三人の芸術家、西村雲華、榎倉香邨、それに高平鱗山さんたち、それぞれ道は違いますが全国的に活躍されている私のひそかに尊敬する方々です。高平さんは都山流尺八楽会の第一人者でよく勉強していますね。日本の伝統である「首」について、あんな頑固な人一寸珍しい経済界には沢山いますが芸術家であれだけ勉強して頑固な人はおらんね。その尺八を手解きしたのが雲華さん（智久山）だそうですね。

司会　それでは最後にお家元から一言。

雲華　今日は先生方からご高説を頂きまして有難うございました。私は若い頃から人の三倍働けば何とか一人前になれるだろうと確信をもってやってきました。まだまだ一人前の事が出来ていないことに反省しているところです。高井さんが言ったように、新しい造形花を手掛けた頃は沢山の愛好者ができ、新日本華道が神戸のお弟子を全部取ってしまうのではないかとの風潮すらありましたが、その時代はそれでいけばなの新世界が発見できてよかったと思います。しかし、公延の話にもありましたように私はその頃から必ずこの反動期が来る、日本の伝統文化特にいけばなの伝統が消え去ることはないと思っておりましたので流の古典花を大切に守ってまいりました。そして前衛的な物の見方、考え方を古典花に繰り入れ（空間美、立体像、線美、水際の美、抽象的表現、単純化、流動感）等々、あらゆる造型要素を凝縮した内容の古典花の美をアレンジして新潮花という新時代の生活に密着した花を創造し、流花として制定いたしました。おそらく前衛花をやっていなかったらこんな仕事は出来なかったでしょう。そして更に雅風花、新生花、民芸花など自然美を基調とした流花も新時代に即した、教え易く、習い易い花種を流花として制定いたしましたが、古典花に格調を重んじているように新潮花もそれを重視、品格のある容姿の表現（これはいける人の人間性）を佳生流の道として指導の重要課題としているところです。岡澤先生が言われておりましたが、これを如何に後世に伝えてゆくか、いけばなで修業する時代でなく遊びくらいしか考えていないむつかしい仕事ですが華道の道を理解され、芸術としてのいけばな愛好者による外ないと思います。そして古典花もしっかりと身につけ、自然もいろんな角度から見つめて美の発見と創造に専念すること、これにつきると思います。これは造形的な面からも自然主義的な見方からも言えることで、究極は如何に自然を捕え、その心を花に託して自分の心の表現ができるか、これがいけばなであり、絵画であり、芸術することだと思います。いけばなは環境に生きるものです。また作家としての立場、家元としての立場、指導者としての立場をゆきまえて仕事をしなければなりません。二重、三重人格の持主ということになりますか、今一つ言っておきたいことは初心を忘れないことです。古裡にならないこと、自信過剰に落ち入らないこと、自我を捨て人の、他流の花のよいところを発見すること、など私の人生で最も大切にしてきたことです。はやく気がつくほど人生が楽しいです。お上手口の多い私たちの世界です。賢者は何も言いません。悪口を言ってくれる人がいちばん親切な人であることを体験してきました。今日は先生方から悪口があまり聞けなかったのが残念ですが、華道家でない、門外漢の方ばかりで心からのご高説と受け止めております。これからは自分たちの足元をみつめながら二十一世紀に向かって歩んでゆきます。なにとぞ佳生流を側面から見て頂き今後とも厳しいご批判を賜りますようお願いいたします。有難うございました。

家元の叙勲とその功績

▲兵庫県知事貝原俊民さんの祝辞



神戸新聞平和賞

独自のいけばな芸術の創造と華道を
つうじて地域文化の興隆発展に貢献

西村雲華殿

神戸新聞社

特別功労賞

常任理事
西村雲華殿

あなたは財団法人日本いけばな芸術協会の設立にあたり理事に就任し以来役員として今日まで二十年の永きにわたり本協会の運営に尽力されその発展に多大な貢献をされました

ここに日本いけばな芸術協会が二十周年を迎えるにあたり特にその功績を讃え功労賞を授与します

昭和六十二年五月二十九日

財団法人日本いけばな芸術協会
名誉総裁
高仁宮妃春子

特別功労賞

会長
細川護貞

あなたは永年にわたり研鑽に努め華道の真髄を究理されるとともに斯道の普及発展にたゆまぬ努力をされ神戸の文化の向上に大きく貢献されました

ここにその功を称えて文化賞をお贈りします

神戸市文化賞

西村雲華殿

兵庫県文化賞

西村雲華殿

新日本華道の家元として華道の発展を極め優れた指導力を発揮して華道界の総和交流に努めるとともに海外留学にもとりくむなど伝統文化の継承発展に尽くされた功績はまことに大きいものがあります

ここに　兵庫県文化賞を贈り顕彰します

昭和64年11月3日

兵庫県知事

平成六年春の叙勲　勲章伝達式

▲神戸新聞平和賞

◀兵庫県文化賞

▼神戸市文化賞

祝福表彰状

西村栄一郎
初子殿

ことし金婚のよき年を迎えられ心からお喜び申しあげます

神戸新聞創刊記念自祝の一端としてここに寿状を贈りあわせてご夫婦の健康長寿とご家門の繁栄をお祈りいたします

平成二年四月二十一日

神戸新聞社

かずかずの功績に輝く
家元西村雲華先生

記念碑建立に思う

家元理事　池添翠節

この度、佳生流御家元西村雲華先生が、県の文化功労賞を戴かれた記念すべき碑が、お家元の故郷に近く、幼い頃の思い出多い鵯龍灘を見おろす、風光明媚な播磨中央公園に建立され、この除幕式が桜花爛漫の好季節、四月十三日に執り行われました。

御来賓には、御家元先生と共に、文化の向上に勤められた、深い交わりのある県及び地元の方々に御出席を賜わり、公私共に御多忙な皆様に花を添えて頂き、誠に嬉しく、紙上をもちまして厚く御礼申し上げます。同門社中はもちろんのこと、遠近より参加して共に喜び合いました。西光寺御住職の読経の声も、雲一つない青空の大自然の中に透き通り、小鳥の囀りも清らかに、すばらしい入魂式でございました。

縁に映える、その石は佐賀県産とか、御家元の故郷を流れる加古川をモチーフにされ、御家元の考案で、「花弄生塵外」と彫られてあります。

御来賓の方々から頂戴いたしましたお言葉の中からも、御家元のすばらしい実行力と、ユニークな面や暖かいお人柄を、改めて感じさせて頂きました。

花の心を大切に、文化発展に貢献されました御家元先生の元で、花の輪を広げ乍ら、何時も絶えざる川の流れを汲みとり、佳生流の益々の発展に努力して参りたいと存じます。

どうか奥様共々、充分に御体御大切に、御指導賜わりますよう伏してお願い申し上げます。

合　掌

▲自分の記念碑に心をこめていけばなを捧げる家元

七〇周年を思う

副家元
西村公延

七〇周年に思う＝いけばな日本人の心

私たち日本人は、他国に誇り得る伝統芸術文化を数多く持っています。能や歌舞伎などは特定の人による厳しい技能修練を積み、その技を我々は楽しく意義深く鑑賞することで参加しています。

いけばなは誰でもが習い、習得した人が演技者であり、同時に鑑賞者であるという性格をもっているのが大きな特徴であり、このことが大衆芸術として広く生活の中に溶け込んでいます。

しかし最近は、趣味の多様化によりいけばな人口が少なくなってきました。主な要因はフラワーアレンジやガーデニング等の花による造型芸術が多様化していることであります。

日本全国都市化による自然の破壊が進み、どこにでも咲いていたかわいい花をみかけられなくなりました。これもまた一因です。

これからもいけばなの伝統を守り、発展させるためには、私たちが一輪の花を大切にして、先達が培ってきたいけばなの根本をしっかりと受けとめ次の世代へつたえていく使命が課せられていることを忘れてはならないと思います。

日本にしかない、いけばなだからこそ、私たちは「花の心」を大切にして、世界の人たちから渇望される、芸術として育てていく必要があります。

家元嗣
西村　崇

七十周年に想う

あまり好ましくない依頼が舞い込んできた。創流七十周年に際して、記念誌に原稿を提出してくれとのことである。「何を書けば…？」というのが正直な感想であった。

僕が物心ついた頃からいけばなが周りにあったが、十二、三才の頃から大学を出るまでは週一回の稽古しかしていなかった。大学を卒業してから本格的に仕事として始めてまだ四、五年しか経っていない。創流六十五周年の時もそうだったが、昭和二年に初代家元西村翠雲つまり曾祖父が流を創始してから七十年の月日が経っているなどという事を深く考えたことはなかった。今まで考えたことのなかったことを多少でも考える機会を与えてもらった今回の原稿の依頼に感謝すべきであって、「何を書けば…？」など思うべきではないのだろう。しかし、今自分がしていることといえば、家元、副家元の手伝い程度ぐらいしかできていない。自分に何ができるわけでもない。自分の考えのあまさに気付く、最近特に自分の勉強不足を感じる。

こんなことで本当にやっていけるのだろうか。だがこれからも家元、副家元の手伝い程度ぐらいしかできないと思う。いけばなは植物を素材とする一枝一花一葉が同じように見える素材でもまったく同じものはひとつとしてない。それぞれの素材の個性をとらえて、その素材のもっとも美しい個性を生かしてゆくことがいけばなではないだろうか。こういった考えを自分なりに、自分らしい表現方法を確立していけたらと思う。

置花（流花）

いけばな人生

理事長　高井　翠花

「花」は多くの出会いを私に与えてくれました。女学校の華道部にその端を発し、お家元の超流派的いけ花活動と新感覚に魅せられてはじめたいけ花ですが、昭和二十七年、神戸三越の県展に受賞し、これを機に母校華道部を指導させて頂き神戸朝日文化教室でも指導を始めました。

前向きで行動派のお家元を見習って、辻久子ヴァイオリンリサイタル（西宮市民会館）を皮切りにあちこちの舞台花を手がけ、陶芸家の作品展は勿論のこと、新谷琇紀先生の彫刻のマスクをいけ花にとり入れたり、書や絵画など個展の挿花では芸術性豊かな作家のお人柄にふれることができました。

昭和四十六年、日本いけ花芸術協会特別会員に推挙して頂いてからは、次々と作品を発表する機会を得ました。昭和五十年、お家元の発案により十六流派の兵庫県女流いけ花作家の集う「燦の会」が発足し、大先輩のお仲間に入れて頂き、流派を越えて人の和を大切にをモットーに大小の花展や研修旅行などを続けて平成六年秋、二十周年の記念展を催すことができました。

昭和五十二年には俳句の稲畑汀子先生をはじめとする各分野からなる五人展に参加、新しい試みとして書家や画家がそれぞれ俳句をどう表現するかを研究し、私も四季の移り変りを改めて見つめ直す貴重な体験をしました。

造形のひらめきを模索しながら瞬間の美を大切にするのがいけ花です。「花」が私を選んでくれたのだと感謝し、いけ花を表現の手段と心得て努力して行きたいと願っています。

流花と私

家元理事　小西　杏花

佳生流の流花には、新潮花（造型美を基調としたいけ花）と新興花（自然美を基調としたいけ花）がありますが、中でも新潮格花・新潮構成花という素晴らしい花型があります。

私は、新潮花に魅せられて数十年、自分なりの感性を育ててまいりました。思い出せば、新潮花と共に青春を歩んで来たようです。

美意識も時代によって変わっていくものですが、私の時代には、前衛いけばなが受けいれられてきた時代だったのです。そのように記憶しております。その当時異質の素材、つまり生活の身近な今迄いけばなに使わなかったような素材を再発見して新しいものを作り、前衛いけばなの素晴らしさを体験いたしました。

また当時、シュールレアリズムとか、アブストラクトとかの美術の影響をうけ、自由自在に若さ溢れる作品を造り、表現花の良さを心ゆくまでたのしみました。そういう意味から新潮花はいつも私の心の支えになっているのです。

植物つまり花を、線・面・塊と考え再構築して美を追求する新潮花は永久に時代が求めるいけ花だとしみじみ思っております。

七十周年を迎えるにあたり、健康に留意して今日まで心の支えとなった新潮花の美をたのしみ追求していくつもりです。そして、一人でも多くの若い人達に新潮花の素晴らしさを伝えていくことが私の使命だと思っております。

「新潮花」をこよなく愛した私の青春の日の一頁と共に…。

七十周年を迎えて

相談役　瀬良　弘風

創流七十周年を迎えるにあたり、私には色々なおもいが去来します。

特に家元西村雲華先生と共に新しい美を求め、試行錯誤をくり返しつつ新しい花型を考案した昭和三十年前後が印象に残っています。新しいいけ花新潮花の誕生です。

以来新潮花は佳生流（当時の新日本華道）のオリジナル花型となり、華道会の先端として注目されて来ました。今後もこの花型は華道界をリードするものと確信しています。

今私は四月二十七日の不慮の事故により入院加療中です（骨折）。折角記念誌掲載のご依頼を受けましたが、今回はこれだけを記すことで責を果たさせてください。

一日も早く復帰し新しい美を求めつづけたいと希っていますが、しばらくは加療に専念致します。

（一九九七・六・二十一記）

新潮構成花
（流花）

家元の海外活動

フランスと旧ソ連

▲フランスニッコードホテルで
花展開催テープカット

▲旧ソ連ハバロフスク友好10周年に文化交流とデモンストレーション
坂井知事さん、成瀬香梅ご夫妻同行

◀兵庫県いけばな協会当時の研修委員長桂宗月先生同伴
（家元向かって左）

▲ハバロフスクでのいけばなデモンストレーション向かって右から、桂宗月、西村雲華、成瀬香梅、故荻野美恵甫

◀ハバロフスク婦人にいけばな指導

中　国

中国関東省広州市へ兵庫県知事▶
の友好親善メッセージを伝達
小豚の丸焼をご馳走になる

アメリカ シアトル

▼アメリカワシントン州と兵庫県姉妹提携25周年記念調印式にシアトル市で花展開催
金井元彦、坂井時忠元兵庫県知事さんも健在

▲モナコ市長さんに色紙プレゼント

▲モナコテレビで放映の小西杏花（手前）と内海渓翠

◀モナコへ住生流一行
花のフェスティバル会場前にて

▼モナコテレビでお生花をいける家元

▲デモンストレーションのいけばなを鑑賞するヨーロッパ人

花のマジシャンと大きく一面に新聞記事に▶
モナコ花のフェスティバルで雲華家元

▶神官衣でデモンストレーションする家元　同行の住生流教授連

モナコ

海外活動あれこれ

理事　釜鳴登華

お家元は積極的に海外活動にもとりくんでおられます。昭和四十年代より、いけばな文化使節として、台湾・中国・パリ・リガ・ハバロフスク・モナコ・シアトル・ネパール等へ赴かれ、いけばなの精神を説かれたり、いけばなの指導やデモンストレーションをしておられます。

どこの国でもたいへんな関心をもってむかえられ、テレビ・ラジオでもニュースとして報道されました。特にモナコでは「マジックハンド」だとお家元の技術のすばらしさを新聞の第一面に大きな写真入りで絶賛しました。

また、兵庫県の文化使節としてワシントン州へ行った時、検疫のため持参した花材がいけこみ時間に使用できなくなったことがありましたがお家元は少しもあわてず、山野で花材を採取して悠々と展示作品をつくり出されました。

ネパールでは二回に亘り王妃をお迎えしての花展とデモンストレーションがありました。お家元は、日本の古典花をはじめ、現地素材を使った作品をネパールの銅器や陶器を用いてすべて逆挿法でいけられました。王妃のご満足のご様子がうかがわれ随行した私たちは誇らしく感じたことが思い出されます。

その後も回を重ねネパールへのいけばな親善活動はつづいております。

また、平成6年に高井翠花先生はフランスカンヌで開催された第三回ジャパンフェスティバルに住生流を代表して出展及びデモンストレーションをなさいました。

鳥飼弘月先生は明石市いけばな協会親善使節として中国・無錫へ行き花展を開かれました。

副家元西村公延先生は平成七年、ゲント国際フラワーショウに出展され、展示デザインについて特別賞、他多くの賞を受けられました。

今後ますますの海外活動が期待されます。

◀カトマンズのシャングリラホテルを会場に花展開催
アイソリヤ王妃をお迎えしてデモンストレーションの後展示作品案内

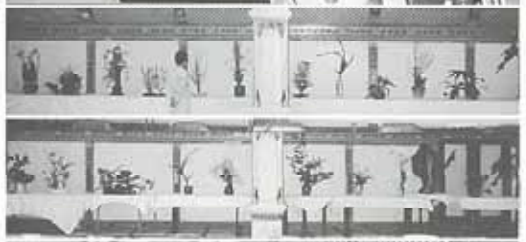
▼ネパールへ直航便就航一番機でネパールへ
操縦室で機長の帽子をかぶってご満悦の家元

▶アイソリヤ王妃を囲んで記念撮影

▶ネパール高官の夫人達

▶伊藤大使と観光大臣

▲ネパール王国アイソリヤ王妃殿下の前で日本のいけばなを披露する雲華家元（2回目）



◀同ブルースターホテルの大ホールでの花展作品

ネパール

▶ネパール王国アイソリヤ王妃殿下をお迎えして日本のいけばなを紹介する雲華家元
1993年ネパールシャングリラホテルにて（1回目）

▶花展観客の強い要請によりデモンストレーションをする雲華家元

▶ネパールで日本文化祭が開催されその時花展開催とデモンストレーション並びに現地の一般人にレッスンを　お後伊藤大使

▶ネパールパタン女子高校生に指導、現地持参の短く切った花のいけ方など熱心な受講態度が印象的

阪神大震災

一瞬にして家屋家財奪う

▶そごう神戸店

▶某家元宅

私の八十年人生の中でいちばん恐ろしい体験はB29の空襲と去る平成七年一月の阪神・淡路大震災、これは普通の地震と違うと思って飛び起きて安全な部屋へ逃げた。後を見たとき私の枕の上へ重い映写機が棚から飛び落ちていた。もしも一足逃げ遅れていたら今頃はこの世に…と思ったら身震いする。生かせてもらったのだからその分だけボランティア活動をしなければと思うようになったが、家の中はガタガタ、花器も百数十個破損したが形のあるものは壊れると思えばそれで気持ちがすっきりした。

ネパールをいける

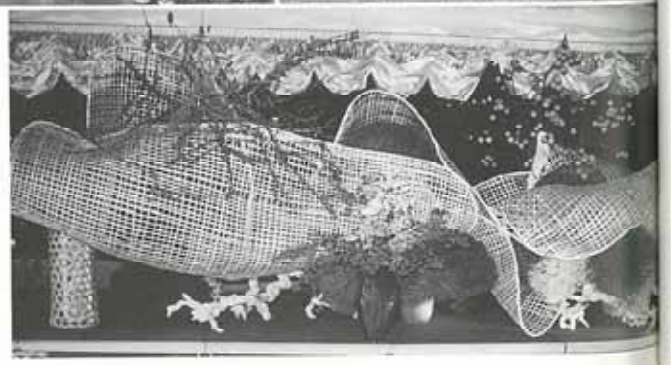
震災によって、一月開催のネパールをいける私の写真とネパールの器を使っての個展ができなくなって三月に延期して開催した。おそらく神戸中でこの時機にこんなことやる者は私だけ。交通はストップ状態、でも心がなごんで大変喜んで頂いてやり甲斐があった。　　雲華

父子孫三代展

神戸生田神社会館

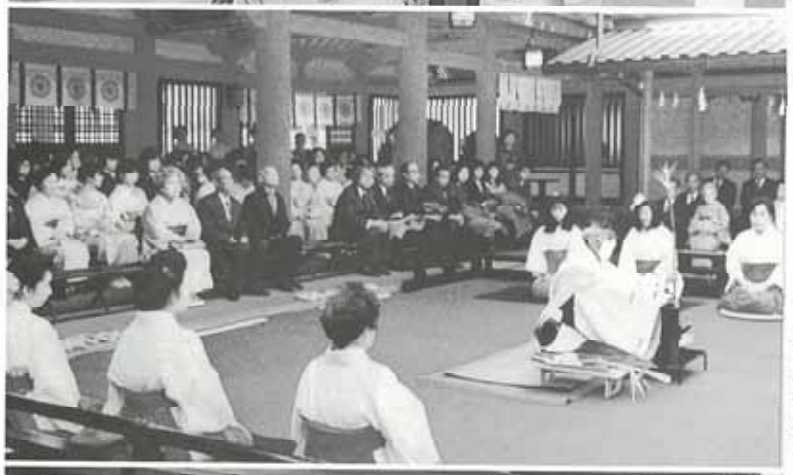
佳生流三代展祝賀会

次女　彩
長女　一美
副家元夫人　佳代
家元補佐　崇
副家元　公延
家元　雲華
家元夫人　宗雲



流内行事

◀摩耶山天上寺献花式



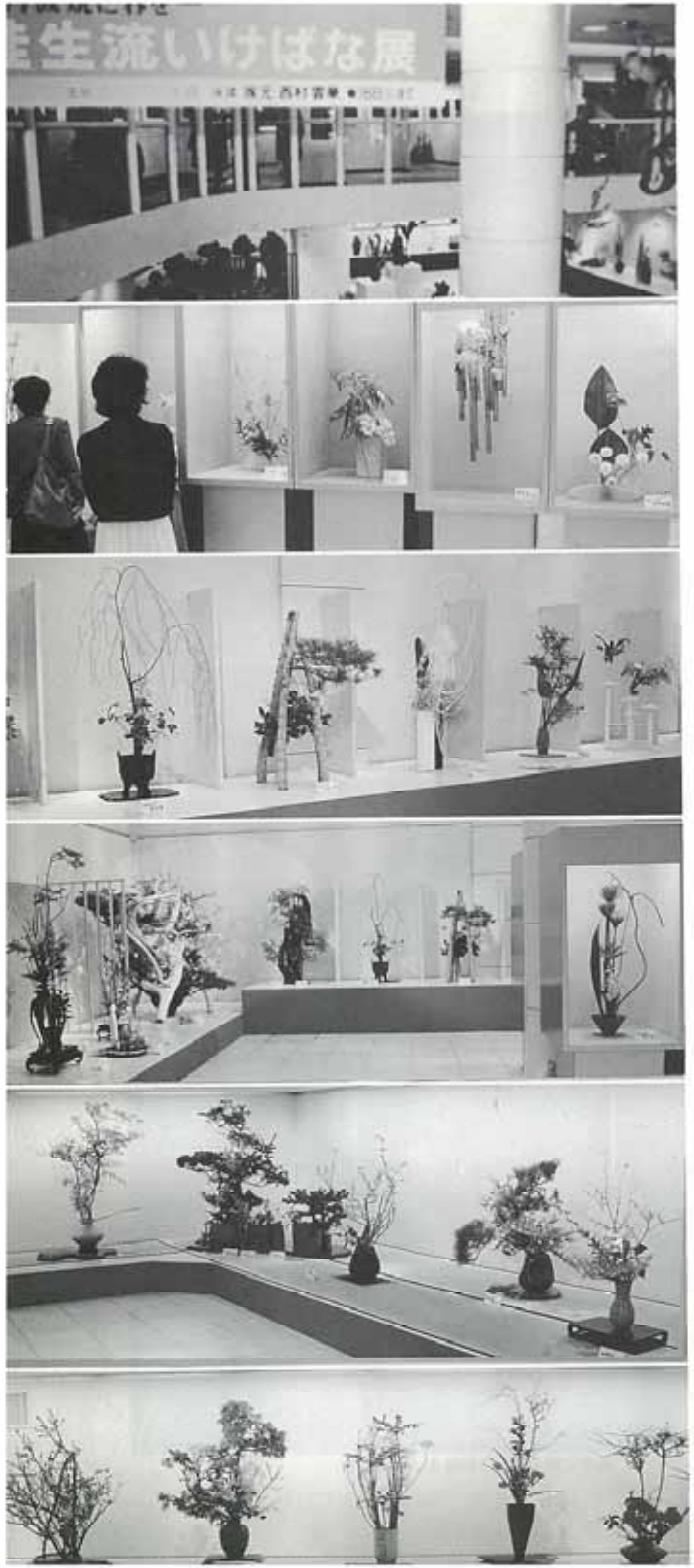
◀生田神社献花式

◀徳光院献花献茶式

◀花供養碑建立記念

◀免状授与式

◀佳生流々名変更報告



流内活動

佳生流いけばな展

神戸さんかひろば

オープンエア活動

◀関西華道協会連絡協議会で6月6日いけばなの日制定記念花展入場者に花を贈呈

▲花と緑の博覧会佳生流席

▲いけばなインターナショナル研究会
家元のデモンストレーション

▲ポートピア'81のときモナコグレス王妃をお迎えして日いけ理事によるそごう神戸店での 花展をご案内

◀大阪高島屋で開催の日本いけばな芸術展会場で佳生流の流花デモンストレーション風景

▲心新たに新春初いけ

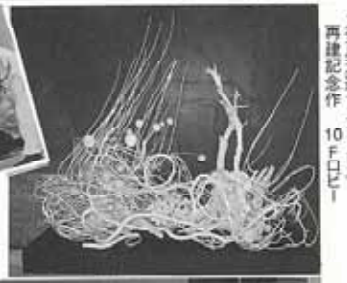
▲神戸高校クラブ活動

▲NHK婦人百科で枯物をいける放映

▼松本城を背景に白鷺のオブジェ家元作

◀神戸三宮地下街迎春花

国宝四城をいける
展松本城にて家元
姫路城を演出
▼



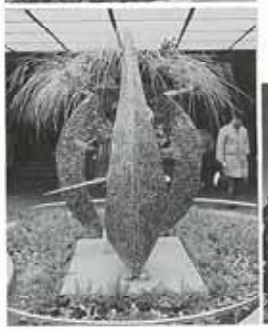
◀神戸交通センタービル
再建記念作　10Fロビー

▲松本城400年祭のイベント
見学の佳生流一行

▲都山流尺
八案会舞
台美術

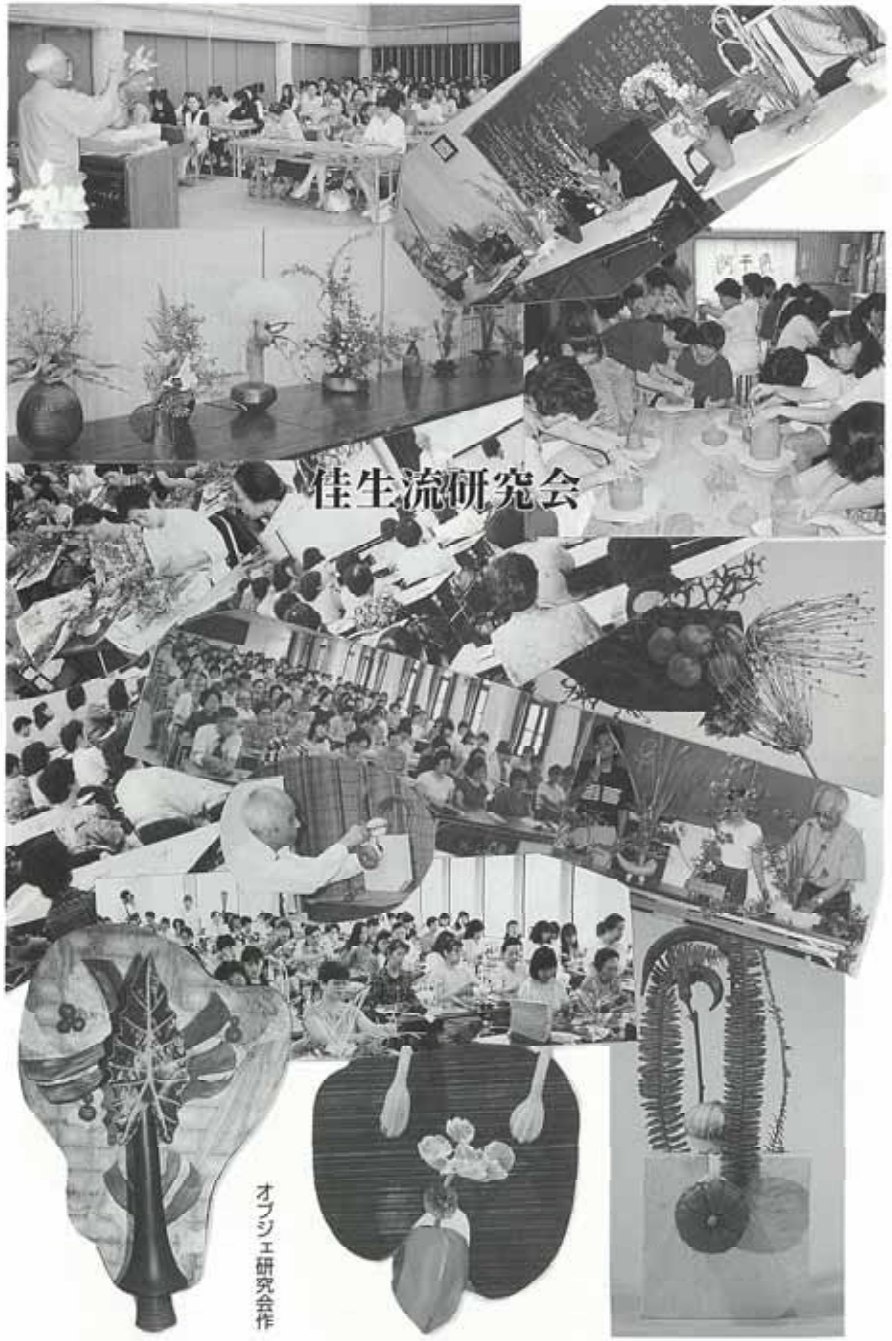
▼神戸三宮地下商店街作

▲NHK大ホール



舞台美術

◀オープンエア活動



佳生流研究会

オブジェ研究会作

◀地鎮祭を終えて
ヌワコットより
ヘリコプターで
カトマンズ空港
に帰港した一行

▲地鎮祭の祈祷をする
現地僧侶。

◀地鎮祭式場

◀歓迎に二千人のヌワコットの人々が集まった

佳生流のボランティア活動

ネパール
ヌワコット佳生流
トレーニングセンター
建設地鎮祭現場

平成九年九月四日

新日本華道改め 佳生流の記録（昭和30年～平成9年）

1955

昭和30年

3・1～17 ・日本華道文化連盟花展家元出品　大阪松坂屋
4・16～21 ・新生活いけ花展　神戸三越　新日本華道新潮会
4・19～21 ・兵庫県生花創立記念花展　神戸大丸
7・24 ・新日本華道夏期特別講座　兵庫県社会事業会館
7・29～8・9 ・納涼いけばな展新日本華道尚華会　神戸松竹劇場
10・16～25 ・第2回全日本いけばな作家百人展出品　大阪松坂屋

1956

昭和31年

4・ ◉西村雲華二代家元継承
4・ ・神戸市立太田中学、丸山中学、葺合中学、筒井台中学、御影中学、住吉中学の講師に家元就任
8・16 ・初代家元西村翠雲先生ご逝去行年六十一歳
10・5～9 ・ひらかた大花展　華之栞社主催
10・7 ・神戸支部幹事会（会報発行・掲載事項協議）
10・7 ・西脇支部師範研究会　家元教場
10・14～24 ・いけばな世紀展　産業経済新聞社主催　大阪松坂屋　家元運営委員
10・21 ・三支部合同役員親睦会　神戸東天閣
10・21 ・加古川師範会研究会
10・22～30 ・ゲンビ展　前期京都市立美術館　大阪阪神百貨店
11・20 ・迎春いけばな展　大阪大丸

1957

昭和32年

1・5 ・新春のつどい　西脇支部
1・6 ・神戸支部設立発会式兼新年会
2・ ・全日本いけばな作家百人展家元運営委員
4・ ・家元神戸森学園講師就任
7・ ・夏期講習会　赤穂御崎

1958

昭和33年

1・2 ・家元理事会　家元宅
1・3 ・西脇支部新年会　西脇黒住教会
1・18 ・神戸支部新年会　神戸六甲荘
2・11～16 ・兵庫県いけばな展　神戸大丸
2・14～22 ・いけばな美術展家元出品　東京渋谷東横デパート
3・25～30 ・「ゆう」「もあ」クラブいけばな展　神戸大丸
3・29～4・8 ・春のいけばな展参加　日本花道文化連盟
3・30 ・兵庫県いけばな協会春の研修会　京大附属園芸場・大阪市大附属植物園見学
4・26 ・西脇支部野外特別研究会　オブジェ素材の採集と実習　高松山周辺
5・3 ・春のリクリエーション　東条ダム／闘竜灘
6・19～25 ・平和美術展・オブジェ出品
7・20 ・先代家元三回忌展　西脇区事務所　法要　観音寺
8・30～31 ・県いけばな協会夏期特別講座　神戸新聞会館
9・23 ・都釐会演奏会舞台装置　家元制作
10・1～3 ・KCC創設1周年記念展　KCCホール

1959

10・14～16 ・関西外人いけばな展　神戸大丸
11・1～21・29 ・大阪芸術祭参加いけばな展　大阪松坂屋
11・20～23 ・西脇勤労者芸能祭　兵庫県労政事務所
11・25～30 ・朝日いけばな展　神戸大丸

昭和34年

1・3 ・今年度家元方針　各地に支部設置
1・11 東京　岐阜　倉敷　哲西　和田山　氷上　篠山　小野　支部長決定　活動開始
1・18 ・西脇支部新年祝賀会　黒住教会
2・10～15 ・加古川支部新年祝賀会　公民館
2・17～22 ・神戸支部新年会　六甲荘
3・6～11 ・第5回兵庫県展　神戸大丸
3・20～22 ・東横展　読売新聞社主催　東京渋谷東横デパート
4・7～12 ・皇太子殿下御成婚記念　神戸そごう6F
5・9～21 ・いけばな新生活展　西脇支部主催　銭屋電気製作所
7・21～26 ・皇太子殿下御成婚記念　全日本いけばな作家50人展　東京日本橋白木屋
8・ ・日本華道文化連盟華展
8・29～30 ・夏をいけるいけばな展　神戸支部　神戸大丸
2 ・夏期特別講座　西脇支部　西脇市労政会館
・兵庫県いけばな協会　夏期講習　高野山
・全日本いけばな百作家展　大阪松坂屋
・大阪芸術祭参加展　大阪高島屋
・関西外人いけばな展　神戸大丸

1960

昭和35年

1・5 ・新生花新設
2・16～21 ・第6回兵庫県展　神戸大丸
3・26～27 ・西脇支部華展　西脇市公民館
4・2～3 ・小野支部創設一周年記念花展

1961

4・2～11 ・大阪花道協会「春の挿花展」
4・10～11 ・美馬翠琳社中展　西脇労働会館
4・16～21 ・KCC作品展　神戸三越
5・2～3 ・西脇織物祭協賛花展　市民会館
7・17 ・夏期特別講座（西脇）　県立西脇高等学校　主催
9・3 ・兵庫県いけばな協会
12・4 ・いけばな協会展　神戸三越
・第5回都釐会公演舞台花　神戸国際会館大ホール
・秋　西脇・加古川地方展　大阪芸術祭、朝日展

昭和36年

7・30 ・西脇夏期特別講習会　西脇市立中学校講堂
9・5 ・研究会神戸支部　神戸新聞文化教室
9・8 ・秋の作品と役員改選　家元西脇教室
9・12～21 ・いけばなフェスティバル　大阪松坂屋
10・20～25 ・兵庫県いけばな協会　秋のいけばな展　神戸そごう
10・21 ・加古川いけばな展
10・29 ・西脇市展
11・14 ・朝日いけばな展　大阪大丸

1962

昭和37年

1・4 ・家元理事会
1・14 ・都釐会　演奏会舞台装置
1・17 ・新年祝賀会　同窓会館神戸高校
2・28 ・いけばな作家集団「創華会」結成主宰
5・2～3 ・先代追善花展　西脇洋裁学院　法要　西脇観音寺
11・18 ・秋期免状授与式
12・22 ・謙太郎氏（現副家元）成人式　三宮神社　神仙閣
・国際いけばな展　大阪松坂屋　サンケイ新聞社主催

1963

昭和38年

- 5・14～19 しあわせの花運動協賛花展　神戸大丸
- 5・19 春期免状授与式　三宮神社
- 8・24～25 夏期特別講習会　兵庫県職員会館
  研修会（25日）近江舞子、比良山方面
- 9・3～8 兵庫県いけ花協会展　創立10周年記念　神戸大丸
- 9・10～15 大阪府いけ花協会展（大阪いけばなフェスティバル）　大阪松坂屋
- 10・11～23 兵庫県いけばな協会幹部展　神戸そごう
- 10・13～14 いけ花研美社展　大阪大手前会館
- 10・13 協会創立十周年記念表彰（家元）
- 11・17 秋期免状授与式　三宮神社
- 11・28～12・4 西村雲華ノンプロ展　神戸新聞会館
- 11 名古屋支部新設
  柳筋教室新設
  日本いけばな研美社同人家元入会
  新日本華道選抜作品集発行

1964

昭和39年

- 1・7～12 兵庫県いけ花協会展　神戸大丸
- 4・8 サンケイいけばな女流展
- 5・12・14 いけ花「ぞく」展　神戸元町ちぐさや画廊
- 5・24 春期免状授与式　三宮神社
  新版テキスト総括篇発行
  『新日本華道秀作集』発行
- 8・2 夏期講習会　神戸市立婦人会館
- 8・28 西脇支部役員改選
- 9・15～20 いけばなフェスティバル　大阪いけ花協会主催　大阪松坂屋
- 9・19～25 KCCギャラリー　第二回家元ノンプロ展
- 9・28～ 第7会朝日文化教室作品展　元町ちぐさ画廊

1965

昭和40年

- 10・9～10 小野支部5周年記念展　小野商工会館
- 10・16～ 加古川市いけ花協会展　加古川市立公民館
- 11・1～3 西脇市展　西脇中学校
- 11・29 秋期免状授与式　三宮神社

1966

昭和41年

- 1・23 柳次会舞踊発表会協賛挿花　神戸国際会館
- 1・25～31 第2回「ぞく」展　神戸新聞KCCホール
- 2・ 民芸花制定
- 4・9～10 いけばな研美展　大阪美術倶楽部
- 4・12～16 いけばな大阪府展　万国博を成功させよう
- 4・29～ 伝統と現在美を創る　家元個人展　神戸そごう
- 5・29 春期免状授与式　三宮神社
- 9・10 美馬翠琳先生御逝去
- 10・3 美馬翠琳先生追悼「供茶花」　西脇高松宝光院

1967

昭和42年

- 1・15～17 神戸デパート花展と和紙クラブ花展
- 1・17～22 創華会展　神戸大丸
- 4・3 高松宮邸園遊会
- 4・15 春期免状授与式
- 4・15～16 創始40周年記念式典　華展　祝賀会　相楽園
- 5・10 西村雲華個人展
- 5・9～14 日本いけばな芸術協会発会記念大花展　東京高島屋
  天皇・皇后両陛下の行幸啓を仰ぐ
- 5・11～16 創華会員グループ展　神戸さんちかひろば
- 5・15 神戸開港百年祭式典会場大作生込み　中央体育館
- 5・22 いけばな神戸展　神戸そごう
- 7・22 兵庫県いけばな協会展　神戸大丸
  兵庫県政百年記念協賛祝賀会
- 7・30 夏期特別研修会　三宮交通センタービル
- 9・28～ 香川県いけばな展家元招待出瓶
- 9・28～ KCC10周年記念花展　神戸デパート
- 10・9～10 先代家元追善花展
- 10・10～11 研美社展　大阪美術クラブ
- 10・13～18 兵庫県いけばな協会秋の花展　神戸そごう
- 10・13 加古川いけばな協会展
- 10・31～ 大阪府花道家協会発会記念花展　大阪松坂屋
- 11・13 秋期免状式　三宮神社
- 10・31～ 「電気展」小品花協賛出品神戸支部　神戸そごう
- 12・ 家元財団法人日本いけばな芸術協会常任理事就任
- 12・ いけばな日本展出品

1968

昭和43年

- 2・4 家元令息謙太郎氏（現副家元）丸一佳代さんと結婚
- 2・15 英観光船オーカデス　デモンストレーション神戸港
- 2・20～25 明治百年をいける兵庫県展　神戸大丸

1969

昭和44年

- 2・22～27 椿をいける花展と茶席　大阪和紙クラブ
- 2・25 教授会　入会推薦者会
- 3・15～22 いけばなを楽しむ新日本華道会展　さんちかひろば
- 3・21～26 サンケイ女流いけばな展　大阪阪神百貨店
- 5・5 春期免状授与式　三宮神社
- 5・28～6・2 日本いけばな芸術協会第一回全国大会　大阪高島屋　高松宮・秩文宮両妃ご来駕
- 7・14 教授会研修会　家元教室　マツス様式
- 7・28 夏期講習西脇支部　市公館（旧市役所）
- 8・4 夏期研修会神戸支部　六甲山植物研究所
- 8・10 秋韻　さんちかウインドー家元作品超大作
- 9・27～10・2 京焼と秋の挿花展　教授会・師範会　神戸そごう
- 10・6～8 名古屋支部花展　名古屋ガーデンビル
- 10・26～31 日中米国際親善いけばな展　台北公会堂
- 11・2～3 研美社展　京都朝日会館
- 11・17 秋期免状授与式　三宮神社

昭和44年

- 2・1 大阪国際空港竣工　オープニング華展
- 3・13～16 神戸支部花展　三宮さんちかひろば
- 10・5 サングループ発足
- 10・12 西脇支部都山流演奏会協賛花展
- 10・10～13 「ぞく」の会野外展　王子公園
- 10・24～27 兵庫県いけばな協会展　神戸そごう
- 11・12～14 大阪府花道家協会展　大阪松坂屋
- 11・13～14 日本いけばな研美社展　大阪美術クラブ
- 11・16 秋期免状授与式　生田神社
- 12・6 日本いけばな芸術協会懇談会　神戸商工貿易センター「高松宮妃を囲んで」

1970

12・　・神戸そごうウインドーに正月花大作出展

昭和45年

1・13～18　・創華会展（新春初いけ）　神戸大丸
1・18　・新春のつどい　神戸国際ホテル
1・27～　・兵庫県いけばな展　神戸大丸
3・26～31　・東都書房いけばなシリーズ「新日本華道会のいけばな」教本出版記念展　さんちかひろば
4・　・万国協賛、日本いけばな芸術展（大阪高島屋）
　・新日本華道のいけばな発行
4・11～12　・西脇支部花展　西脇市民会館ホール
5・17　・春期免状授与式　生田神社
7・19　・夏期講習会　神戸市立教育植物園

1971

昭和46年

1・17　・新春のつどい　神戸貿易センタービル
2・21　・日本いけ花芸術協会西部総大会
2・28　・サングループ第1回研究会
2・28　・教授会研修会　盛物民芸花研究
3・1～6　・家元ハワイ研修旅行
3・25～30　・第4回新日本華道いけばな展　神戸さんちかひろば
4・10～11　・加古川支部展　姫路信用金庫加古川支店
4・27～29　・市制20周年織物まつり協賛西脇支部展　市民会館
10・14～17　・加古川市いけ花協会展　市公会堂
10・24　・秋の研修旅行　大津月心寺　石山寺　信楽焼見学
11・5～9　・西脇市いけばな協会展　市民会館
11・21　・秋期免状授与式　生田神社
12・12　・教授会　家元教場、師範会、三宮交通センタービル
12・25　・神戸そごう大ウインドー出展
　・勅題〝花〟に因んでテーマ「ふるさとに想う」
　・新日本華道テキスト総括編発行

1972

昭和47年

1・9　・新年会　神戸サンプラザ
3・30～　・新日本華道神戸展　さんちかひろば
4・2～3　・新日本華道加古川展　姫路信用金庫加古川支店
5・9～14　・日本いけばな芸術大阪展　高島屋
5・18～23　・神戸バラ展協賛出瓶　神戸大丸
5・28　・春期免状授与式　生田神社
7・13～16　・台北研修旅行　家元（日いけ研修）
7・30　・夏期講習会　明石生命ビル
9・1～6　・秋のいけばな協会展　神戸そごう
9・30～10・3　・初代家元西村翠雲先生17回忌追善の会　西脇支部西脇市民会館
10・27　・県民会館文化まつり
11・11～14　・加古川市いけばな協会展　加古川農協会館
11・26　・秋期免状授与式　生田神社

1973

昭和48年

1・7　・新春のつどい　神戸相楽園会館
1・12　・神戸市婦人会いけばな展　神戸さんちかひろば
3・6～11　・日本いけばな芸術展　東京高島屋
3・24～29　・新日本華道さんちか展　神戸さんちかひろば
4・6～11　・サンケイ女流いけばな展　大阪そごう
4・14～25　・家元神戸・天津友好親善の船参加
5・11～16　・日本いけばな芸術九州展　福岡岩田屋
5・17～22　・いけばな神戸展　神戸大丸
5・20　・春期免状授与式　生田神社
6・19　・東京支部研究会
7・29　・夏期講習会　県民会館
9・8～9　・初秋にいける新日本華道展　加古川市民会館
9・20～25　・日本いけばな芸術中国四国展　岡山高島屋
10・11　・東京支部研究会

1974

10・16　・研美社展
11・1～5　・兵庫県いけばな協会展　神戸大丸
11・1～4　・明石いけばな協会展　明石市役所
11・1～4　・西脇市いけばな協会展　西脇市民会館
11・1～4　・中町いけばな協会展　中町文化会館
11・10～11　・欽松文化学園文化祭
11・22～26　・加古川市いけばな協会展　加古川市民会館
11・23～25　・小野市いけばな協会展　小野市民会館
11・23　・秋期免状授与式　私学会館
11・24～25　・黒田庄町いけばな協会展　黒田庄町役場

昭和49年

1・4　・さんちか三菱コーナー初いけ
1・13　・新春のつどい　サンセブン「三宮サンプラザ6F」
1・24　・兵庫県いけばな協会展
3・1～6　・サンケイ女流いけばな展　大阪そごう
3・28～　・丹波焼にいける花展　さんちかひろば
4・　・エリザベス女王来日、東京赤坂迎賓館にていけばなをご覧頂く
4・9～14　・メトロギャラリー　社中展
4・13　・花の碑開眼式　徳光院
4・25～30　・日本いけ花芸術展　家元西部代表出瓶　東京高島屋
5・　・神戸市・ソ連リガ市姉妹都市提携文化親善使節として訪ソ
5・16～21　・日本いけばな芸術大阪展　高島屋
5・18　・高松宮妃殿下との懇話会　ロイヤルホテル
6・2　・春期免状授与式　徳光院
7・4　・東京支部研究会
7・28　・新日本華道夏期講習会兵庫県民会館10F
9・20～25　・日本いけばな芸術名古屋展　名鉄百貨店
10・1～2　・県立図書館落成祝賀花展　明石市
10・10～15　・第8回さんちか花展　さんちかひろば

1975

10・22～23　・日本いけばな研美社展　大阪芸大文化センター
10・31～　・明石市芸術祭参加いけばな展　明石市役所ロビー
11・1～3　・西脇いけばな協会展　西脇市民会館
11・10～15　・兵庫県いけばな協会姫路展　ヤマトヤシキ百貨店
11・15～17　・船橋市いけばな展　船橋法典公民館
11・17　・免状授与式　徳光院
11・15～20　・そごう神戸新館落成記念　神戸50人展
11・22～24　・兵庫県サービスセンターオープン記念展　そごう
11・22～25　・加古川市いけばな協会展　市民会館
11・23～24　・小野市いけばな協会展　小野市体育館
11・29～　・日本いけばな芸術高松展　高松市民会館

昭和50年

1・12　・新春のつどい　生田神社会館
5・8　・東京迎賓館家元挿花　エリザベス女王殿下お迎えして　主催日本いけ花芸術協会
5・18　・春期免状授与式
6・6～11　・愛媛新聞創刊百周年記念　日本いけばな名流芸術展　松山いよてつそごう
6・19～24　・いけばな生活展　さんちかPRタウン移動教室
8・3　・夏期講習会　多紀郡今田町立杭の里
11・16　・秋期免状授与式

1976

昭和51年

4・　・新生花・園芸花制定
4・15～17　・創立10周年記念日本いけばな芸術展　大阪高島屋
4・26～28　・イケバナインターナショナル神戸支部展　相楽園

1977

昭和52年

5・9～10 ・家元教場改築記念家元個展
5・30 ・春期免状授与式
8・1 ・夏期講習会　神戸高校同窓会館
10・ ・日いけ10周年記念東部展（東京高島屋）
皇后、皇太子、皇太子妃ご来臨
10・7～12 ・家元高松宮妃殿下より表彰
11・14 ・新日本華道会展　さんちかひろば
12・9 ・秋期免状授与式　徳光院
◉家元神戸文化団体半どんの会文化賞受賞 神戸大丸
・新日本華道選抜作品集発行

2・27 ・兵庫県いけばな展
3・10～15 ・サンケイ女流いけばな10周年記念展　大阪そごう
3・13 ・神戸市営地下鉄開通オープン記念出瓶　新長田駅
4・11 ・京都展　家元出瓶　京都大丸
4・14～19 ・日芸甲信越展（家元）　長野市丸光百貨店
4・24 ・いけばな文化のつどい　神戸文化ホール
5・1 ・新日本華道50周年記念祝賀会　オリエンタルホテル
5・5～10 ・兵庫県いけばな協会展
5・13～18 ・兵庫バラ展審査といけばな展　神戸そごう
5・28 ・日本いけばな芸術高松展　高松
6・12 ・春期免状授与式　徳光院
7・16～17 ・日本いけばな研美社展　京都
10・23～24 △新日本華道50周年記念花展　西脇市民会館
11・20 ・秋期免状授与式　家元教場

1978

昭和53年

1・8 ・新春のつどい　神戸ニューポートホテル
2・12 ・新日本華道推進委員会　家元教場
2・23～28 ・兵庫県いけ花協会展
3・3～8 ・サンケイ女流いけばな展　大阪そごう

1979

昭和54年

4・1～3 ・サングループ展　家元教場
5・11 ・日本いけばな芸術協会展　東京高島屋
5・21 ・春期免状授与式
7・23 ・夏期講習会
10・5 ・新日本華道いけばな展　さんちかひろば
10・12～21 ・日本いけばな芸術協会展　大阪高島屋
11・ ◉家元日赤金色有功賞受賞
11・19 ・秋期免状授与式

1・5 ・家元理事会　家元教場
2・21～27 ・兵庫県いけばな展
3・8～13 ・サンケイ女流いけばな展　大阪そごう
4・ ・家元兵庫県いけばな協会会長に就任
・家元兵庫県文化協会理事に就任
4・12～17 ・新日本華道展　さんちかひろば
5・ ・家元兵庫県フラワーセンター協会理事に就任
5・11～13 ・日本いけばな芸術協会四国展　高松国際ホテル
5・24～29 ・兵庫県いけばな協会展　神戸大丸
5・27 ・春期免状授与式
7・22 ・夏期講習会
7・24 ・兵庫県ハバロフスク地方友好交流親善使節訪ソ
9・28～30 ・研美社展　大阪芸大センター
10・ ◉家元兵庫県文化賞受賞
10・10 ・日本いけばな芸術東北展　仙台丸光百貨店
10・14 ・県民会館文化祭展
10・28 ・秋期免状授与式　徳光院
11・2～7 ・明石いけばな展　明石デパート
11・21 ・上筒井婦人会花展　25周年記念バザー
11・22～24 ・加古川市いけばな協会展　加古川市民会館
11・22～27 ・兵庫県いけばな展　神戸大丸
11・25 ・明石文化教室フェスティバル　商工会議所

1980

昭和55年

1・13～14 ・新日本華道新春のつどい　生田神社会館
・県文化賞受賞記念家元個展
3・7～12 ・サンケイ女流いけばな展　大阪そごう
4・ ・兵庫倶楽部理事就任
4・9 ・観桜会　桜の篝火いけ献華　さんちかタウン
5・25 ・春期免状授与式　徳光院
4・12～13 ・西脇支部展　藤井豊光先生追善　西林寺公園会館
4・17～22 ・燦の会展　さんちかひろば
5・22～27 ・兵庫県いけばな協会展　神戸大丸
5・31 ・華国鋒主席来神パーティー会場いけこみ
6・10 ・時の記念日野外展　明石いけばな協会　明石駅前
7・18 ・相談役池田昭風先生逝去
7・20 ・夏期講習会　神戸市中小企業センター
7・23 ・皇太子殿下行啓奉迎花　西脇市織物協同組合応接室
9・6 ・都艶会演奏舞台花
9・13 ◉お家元神戸文化賞受賞
10・ ・日本いけばな芸術展　大阪高島屋
10・20～22 ・新日本華道雅風花展　兵庫県民サービスセンター
10・23～28 ・日本いけばな芸術北陸信越展　富山県民会館
10・31～ ・兵庫県民会館文化教室作品展　兵庫県民会館
10・31～ ・現代華と陶展　京都近鉄百貨店
11・1～3 ・西脇いけばな協会展　西脇コミニュティーセンター
11・1～4 ・明石いけばな協会展　明石駅前デパート
11・8～9 ・炎の会展　大阪芸術センター
11・16 ・秋期免状授与式　徳光院
11・20～25 ・兵庫県いけ花展　神戸大丸
11・22～23 ・小野いけばな協会展　小野市民会館
11・22～24 ・加古川いけばな協会展　加古川市民会館

1981

昭和56年

4・2～7 ・新日本華道花展　さんちかひろば
4・6 ・モナコ公国レーニエ大公とグレース王妃来日花展
神戸そごう
4・29～5・5 ・日本いけばな芸術九州展　北九州市小倉井筒屋
5・7～12 ・県一高女80周年記念展　さんちかひろば
5・21～26 ・兵庫県いけばな展　神戸大丸
5・24 ・池田昭風先生追悼新日本華道展　西脇コミニュティーセンター
5・31 ・春期免状授与式　徳光院
6・1～4 ・ポートピア博覧会場出展　地方自治体館
7・19 ・夏期特別講習会　神戸市中小企業センターホール
7・22～8・2 ・明石いけばな協会訪米使節参加
9・3～9 ・舞子焼未汎窯南汎作陶展挿花　神戸そごう
9・7 ・NHK婦人百科いけばな講座担当放映
9・8～10 ・神戸華僑業余文化生活展　県民会館
10・ ・県民会館文化教室美術展
10・27～28 ・研美社展　大阪美術クラブ
11・2～3 ・中町いけばな協会文化祭展　中町公民館
・佳生流テキスト総括編発行
11・5～10 ・兵庫県いけばな展　神戸大丸
11・3～7 ・明石いけばな協会芸術花展　明石市民ホール
11・13～14 ・染色展挿花　芦屋大丸
11・15 ・秋期免状授与式　家元教場
11・20～23 ・加古川市いけばな協会展　加古川市民会館
11・22～23 ・西脇市いけばな協会展　西脇市福祉センター
11・23～26 ・パリいけばな親善使節団長として家元訪仏、花展
開催、ホテルニッコード・パリ
11・28～29 ・小野市いけばな協会展　小野市民会館
・兵庫県文化賞受賞作品展　県民サービスセンター

1982

昭和57年

1・10 ・新春のつどい　農業会館
2・20～21 ・炎の会　生田神社会館　副家元出瓶
2・21～24 ・西宮いけばな協会誕生記念花展　西宮市役所
3・12～17 ・サンケイ女流いけばな展　大阪そごう
5・ ・兵庫県・広州友好親善使節として訪中
5・ ・雅風花制定
5・ ・近畿華道協会連絡協議会設立、家元初代議長「六月六日」をいけばなの日として制定
5・20～25 ・兵庫県いけばな協会展　神戸大丸
5・13～18 ・創立15周年日いけ展　東京高島屋
5・27～ ・日本いけばな芸術展　大阪高島屋
6・6 ・春期免状授与式　徳光院
6・11 ◎日本いけばな芸術協会特別功労賞家元受賞　副賞を高松宮妃ガン研究基金へ寄贈
7・25 ・夏期特別講習会　三宮センタープラザ
9・17～19 ・サングループ古典花研究発表会　家元教場
10・26～29 ・この道50年雲華回顧展　県民会館
11・28 ・秋期免状授与式　家元教場

1983

昭和58年

1・5 ◎新日本華道会改め佳生流誕生
1・9 ・佳生流新春のつどい　農業会館
3・11～16 ・サンケイ女流いけばな展　大阪そごう
3・18～23 ・日本いけばな芸術中部展　名鉄百貨店
4・28～30 ・明石文化センター習作展　白菊グランドビル
5・29 ・春期免状授与式
6・2～7 ・兵庫県いけばな協会展　神戸大丸
6・26 ・兵庫県いけばな創立30周年記念式　神戸市文化会館
7・8～13 ・兵庫県いけばな協会中国親善の旅　香港広州桂林
7・17 ・夏期講習会　県立嬉野生涯教育センター
9・9～14 ・日本いけばな芸術北海道展　札幌そごう

1984

9・21 ◎家元いけばな褒賞杯授賞式　高松宮御殿
10・2～4 ・県民会館文化教室展
10・15～18 ・加古川市いけばな協会展　加古川市民会館
10・20～25 ・日本いけばな芸術中国展　岡山高島屋
10・24～26 ・西宮市文化祭秋のいけばな展　西宮市役所
10・25～27 ・雅風花展　県民サービスセンター　教授会
10・30 ・秋期免状授与式
11・1～3 ・西脇市文化祭いけばな展　市総合福祉会館
11・3～6 ・明石市芸術祭　市民ホール
11・10～15 ・佳生流いけばな展　さんちかひろば
11・27～28 ・高槻支部同好会花展　下田部公民館
12・24 ・東京支部研究会

昭和59年

1・8 ・新春のつどい　兵庫県農業会館
2・ ・家元財団法人いけばな芸術協会副理事長就任
2・5 ・教授会研修会　家元教場
3・9 ・サンケイ女流いけ花展　大阪そごう
4・22 ・春期免状授与式
5・17～22 ・いけばな神戸展　神戸大丸
5・24～29 ・日本いけばな芸術大阪展　高島屋
7・22 ・夏期講習会　兵庫県私学会館
10・5～10 ・サンケイ選抜いけばな百人展　大阪そごう
10・18～23 ・兵庫県いけばな展　神戸大丸
10・21 ・秋期免状授与式　徳光院
10・25～30 ・日本いけばな芸術大阪展　高島屋
11・22～23 ・日本いけばな芸術高松展
11・25～26 ・佳生流西脇花展　西脇市民会館

1985

昭和60年

1・5 ・家元理事会　家元教場
1・13 ・新年初いけ式祝賀会　生田神社会館
2・8 ・いけばなインターナショナル研修会　神戸外人クラブ
3・21～22 ・佳生流いけばな加古川展　鶴林寺宝生院
4・21 ・春期免状授与式
5・26 ・日本いけばな芸術研修会　神戸ワイン城・加西フラワーセンター
5・30～ ・兵庫県いけばな協会展
6・7～12 ・日本いけばな芸術盛岡展　盛岡市川徳百貨店
6・10 ・明石野外いけばな展　明石駅前
7・21 ・夏期講習会　三宮センター街センタープラザ
8・24～29 ・新進いけばな作家競作展　大阪そごう
10・3～8 ・日本いけばな芸術信越展　新潟伊勢丹百貨店
10・20 ・秋期免状授与式
11・7～12 ・兵庫県いけばな展　神戸大丸
11・7～12 ・京都府華道芸術協会展　京都大丸
11・9～10 ・小野市いけばな協会展　市民会館
10・25～28 ・日本いけばな芸術四国中国展　高松国際ホテル
11・25～26 ・佳生流いけばな西脇展　市民会館

1986

昭和61年

1・12 ・新春のつどい　生田神社会館
3・1～3 ・東はりま文化連盟花展　加美町文化会館
3・ ・サンケイ女流いけばな展　大阪そごう
5・1～12 ・モナコ国際花のフェスティバル参加　モナコで花展テレビ放映
5・8～13 ・日本いけばな芸術展　東京高島屋
5・18 ・摩耶山天上寺　献華
5・29～30 ・いけばな神戸展　神戸大丸
6・8 ・日本いけばな京都研修会　総会
7・13 ・夏期講習会　三宮中小企業センター
8・30～9・3 ・新進いけばな作家競作展　大阪そごう
9・27～28 ・加古川編物学院ニット展協賛いけばな展　加古川商工会館展示ホール
10・2～7 ・兵庫県いけばな展　神戸大丸
10・10～13 ・加古川いけばな展　市民会館
10・11～20 ・いけばなインターナショナル世界大会　京都国際会館
10・23～28 ・日本いけばな芸術展　大阪高島屋
11・1～4 ・明石いけばな協会展　ラポス
11・2～3 ・西脇市文化祭いけばな展　総合市民センター
11・12～18 ・花よろずいけばな三人展　家元他　大阪そごう
11・14～19 ・燦の会展　さんちかひろば
12・6～7 ・炎の会花展　生田神社会館

1987

昭和62年

1・15 ・新春のつどい　ホテルシェレナ
3・20～25 ・20周年記念サンケイ女流いけばな展　大阪そごう
3・26～31 ・創始60周年記念佳生流いけばな展　さんちかひろば
4・25～26 ・創始60周年記念加古川・小野支部展　商工会議所
5・14～19 ・創立20周年記念日本いけばな芸術展　大阪高島屋
5・28～ ・いけばな神戸展　神戸大丸
5・29 ◎日本いけばな芸術協会創立20周年記念式典　功労賞受賞　家元他6名
・いけばな褒賞杯拝受　高松宮ご紋章入銀杯
7・12 ・夏期講習会　神戸中小企業センター
8・29～ ・新人いけばな作家選抜展　大阪そごう
9・20 ・東播地区研究会　西脇カルチャーセンター
9・27 ・神戸地区研究会　兵庫県民会館
10・ ・佳生流華道選抜作品集三号発行

1988

昭和63年

10・3～4・60周年記念西脇支部花展　西脇市民会館
11・11～16・日本いけばな芸術九州展　博多岩田屋
11・14～15・日本いけばな研美社展　大阪美術クラブ
11・29　佳生流60周年記念式典　ホテルシェレナ

1・・神戸市連合婦人会新春さんちか展
2・20～21・小野市いけばな協会　春の花展　小野市民会館
3・・サンケイ女流いけばな展
3・15・西脇ふれあい講習会　郵便局ホール
5・26～31・兵庫県いけばな協会展　創立35周年記念展　神戸大丸
7・17・夏期講習会　中小企業センター
・選抜作家展
・東播磨いけばな展
9・10～14・新進いけばな作家競作展　大阪そごう
10・6～18・日本いけばな芸術展　東京高島屋
10・14～17・加古川市いけばな協会展　加古川市民会館
10・22～26・第3回国民文化祭'88ひょうご生活文化総合フェアー花展　県文化体育館
10・26～31・第3回国民文化祭'88ひょうごふれあい日本いけばな展　神戸そごう
11・1～3・西脇市いけばな協会展　西脇カルチャーセンター
・炎の会展

1989

平成1年

1・13～22・新春いけばな展　葺合文化センター
1・29・新春のつどい　ホテルシェレナ
2・・家元日本いけばな芸術協会代表参与就任
2・19・花慰問老人ホーム長和園　加古川いけ花協会
2・24・教授会総会　綾部山新舞子荘
2・22・箕谷教室発表会　山田公民館
3・10～15・サンケイ女流いけばな展　大阪そごう
3・15～19・佳生流西村雲華家元個展（絵 写真 いけばな 書）県民会館特別展示室
3・18～19・東播磨いけばな展　加古川市民会館
4・13・神戸イケバナインターナショナル花展　相楽園
4・25～5・3・明石いけ花協会20周年行事訪中（北京無錫他）
5・・家元兵庫県いけばな協会名誉相談役就任
5・3・家元　第43回神戸新聞平和賞受賞
5・15・表彰式　神戸新聞社会議室
5・12・いけばなインターナショナル神戸支部総会　デモンストレーション神戸山手外人クラブ
5・18～23・第2回日本いけばな芸術展　大阪高島屋
5・25～30・神戸市制100周年記念協賛いけばな展　神戸大丸
5・28・春期免状授与式　家元教場
6・3～4・社町いけばな展
6・30・神戸新聞平和賞受賞お祝会　生田神社会館
7・16・夏期講習会　神戸市中小企業センター
8・2～5・兵庫県友好ワシントン建州百年祭親善使節　兵庫フェアー佳生流展　アメリカ・シヤトルセンター
9・1～6・新進いけばな作家競作展　大阪そごう
9・19～21・神戸華僑文化生活展　県民アートギャラリー
9・30～・社中展（岸本良風）　中町糀屋寿宝殿
10・3～6・明石市制70周年記念創立いけばな展
10・27～29・社中展（荒田圭芳）　加古川ニッケパークタウンアネックスビル
10・19～24・兵庫県いけばな展　神戸大丸
10・22・秋期免状授与式　家元教場
11・5～6・燦の会展　生田神社会館
12・3～4・炎の会展　生田神社会館
・加古川市いけばな協会創立30周年記念式典

1990

平成2年

1・12～21・新春いけ花展　葺合文化センター
1・18～20・新春いけばな展　塚口ダイエー
1・28・新春のつどい　ポートピアホテル
3・9～10・第7回東ハリマ花展　加西市農協会館
3・13～18・兵庫県ふれあいの祭典協賛　佳生流花展　丹波焼にいける　さんちかひろば
3・・サンケイいけばな女流展　大阪そごう
4・26～・さんちかひろば陶器展　添花
4・29～・国際花と緑の博覧会
5・24～29・いけばな神戸展　神戸大丸
5・25～27・ふれあいの祭典'90協賛「選抜作家いけばな展」兵庫県公館
5・27・春期免状授与式　徳光院
6・2～3・社町つつじ祭協賛花展　社町武道館
6・3・教授会総会　丹波陶の郷
7・22・夏期講習会　神戸市中小企業センター
9・1～14・社中展　NTT垂水営業所特別展示室
・佳生流のいけばな教本発行
9・8・新進作家いけばな展　大阪そごう
10・4～9・ふれあいの祭典　兵庫県いけばな展　神戸大丸
10・28・秋期免状授与式　家元教場
11・2～4・西脇市いけばな協会展　西脇カルチャーセンター
11・3～4・中町いけばな協会展　中町ベルディホール

1991

平成3年

1・6・新春のつどい　ポートピアホテル
3・6～11・サンケイ女流いけばな展　大阪そごう
3・22～23・東はりまいけばな展　明石市立勤労福祉会館
4・18～23・陶器市添花　さんちかひろば
5・7～9・神戸まつり協賛いけばな展　葺合文化センター
5・23～29・いけばな神戸展　神戸大丸
5・25～26・選抜作家いけばな展　兵庫県公館
6・2・春期免状授与式　家元教場
6・10・時の記念日いけばな展　明石コンコース
7・13～14・「陶の郷」佳生流いけばな展丹波焼にいける
・夏期講習会　丹波立杭陶の郷
9・1・元理事長（河合三雲）ご逝去　徳光院
9・4～9・いけばな新進作家展　大阪そごう
10・13・中尾都山四代襲名披露全国大会　吊花・ステージ花　祝花　ポートアイランド国際交流会館
10・16～21・加古川いけばな展　加古川市民会館
10・19～20・兵庫県いけばな展淡路会場　淡路東浦町海洋センター
10・24～29・日本いけばな芸術展　大阪高島屋
10・27・秋期免状授与式　徳光院
10・30～・神戸華僑業余文化生活展　兵庫県民会館
10・31～・'91ふれあいの祭典　兵庫県いけばな展　神戸大丸
11・2～3・西脇市いけばな展　西脇市総合市民センター
11・2～3・中町いけばな展　中町ベルディホール
11・2～5・明石市いけばな展　明石市民ホール
11・9～10・小野市いけばな協会展　小野市民会館
11・23・日本いけばな研美社展　大阪美術クラブ

1992

平成4年

1・7～8・婦人会新春いけばな展　さんちかひろば
1・10～19・葺合文化センター新春いけ花展
1・15～20・第10回新春いけばな展　塚口ダイエー
1・26・新春のつどい　ポートピアホテル
2・5～10・日本いけばな芸術協会　21世紀をいける　神戸そごう
3・4～9・サンケイ女流いけばな展　大阪そごう
3・7・神戸市生活学習センター開館式　玄関ロビー祝花大作

1993

平成5年

- 1・14　塚口いけばな展　ダイエー塚口
- 3・3～8　サンケイ女流いけばな芸術展　大阪そごう
- 3・5～8　加古川市いけばな協会展　加古川市民会館
- 3・14　春期研究会東播支部　西脇郵便局ホール　構成花
- 3・25　二期会オペラ歌手コンサート舞台花　芦屋ルナホール
- 3・27～　ネパール大使館主催　日本文化祭参加　ネパールブルースターホテル
- 5・13～18　第26回日本いけばな芸術展　大阪高島屋
- 4・12　家元喜寿お祝会　教授会　蘇州園
- 5・8～9　選抜作家いけばな展
- 5・14　日本いけばな芸術展　創立25周年　東京高島屋
- 5・21～26　いけばな神戸展　〝風・粧〟神戸大丸
- 7・2　佳生流いけばなデモンストレーション　ドイツボン
- 7・19　夏期講習会　県立加西フラワーセンター
- 9・9～13　新進作家いけばな展　大阪そごう
- 9・19～28　ネパール訪問花展　アイソリア王妃をお迎えして、花展とデモンストレーション
- 10・10　兵庫県ふれあいの祭典花展　春日町公民館
- 10・29～11・3　兵庫ふれあいの祭典いけばな神戸展　神戸大丸
- 10・31～11・3　明石市いけばな芸術祭展　明石市民ホール
- 11・1～3　西脇市いけばな協会展　西脇カルチャーセンター
- 11・2～3　中町いけばな協会展　中町ベルディホール
- 11・7～8　小野市いけばな協会展　小野市民会館
- 11・14～15　佳生流創始65周年記念式典と花展　ホテルシェレナ
- 12・5～6　第10回炎の会展
- 12・19　日本いけばな芸術協会　創立25周年記念式典　東京ホテルニューオータニ

1994

平成6年

- 1・5　理事長就任　高井翌花
- 1・11～20　葺合文化センター新春いけばな展
- 1・30　新春のつどい　ホテルシェレナ
- 2・19～21　第11回炎の会展　広島県民文化センターふくやま
- 3・2～7　サンケイ女流いけばな展　大阪そごう
- 3・4～7　加古川市いけばな協会展　加古川市民会館
- 3・18～20　第3回カンヌ文化祭　出展デモンストレーション　フランス　カンヌ
- 4・13～17　神戸蘭展　ポートアイランド国際展示場
- 4・23～5・3　明石市いけばな協会　日中友好交流華展　無錫大飯店
- 5・10　春の叙勲勲章伝達式　家元叙勲
- 5・26～31　いけばな神戸展　神戸大丸
- 5・19～31　ネパールいけばな使節写真展　神戸そごう
- 5・20～25　兵庫県いけばな協会創立40周年記念　KOBE'93　アーバンリゾートフェア参加
- 7・11　夏期講習会　明石市立文化博物館
- 7・20　国宝松本城400年まつりパフォーマンス　姫路城担当
- 7・27～29　翔の会　書展添花　生田神社会館
- 9・8～13　'93年いけばな新進作家展　大阪そごう
- 10・14～19　兵庫県いけばな協会創立40周年記念花展　神戸大丸
- 10・21～26　第27回日本いけばな芸術展　東京
- 10・21～26　三宮カルチャークラブ展
- 12・14～17　SEIB　神戸挿花展　ハーバーランド
- ベイシェラトンいけばな担当
- アーバンリゾートフェア協賛展
- 華僑文化展

1995

平成7年

- 1・3～5　グループ「ゆう」いけばな展　神戸大丸
- 1・10～13　新春いけばな展　葺合文化センター
- 1・22　新春のつどい　ベイシェラトン
- 3・13～19　「ネパールをいける雲華展」三江ギャラリー
- 3・15　サンケイ女流いけばな展　大阪そごう
- 4・　ゲント国際フラワーショウ　ベルギー
- 5・28～29　選抜作家いけばな展　兵庫県公館
- 6・6　家元勲五等双光旭日章受賞記念祝賀会　神戸ベイシェラトン
- 6・10　時の記念日明石いけばな花展　JR明石駅コンコース
- 6・23～28　神戸婦人会ママさんいけばな展　さんちかひろば
- 7・23～24　全日本いけばな代表作家展　秋田県セントラルビル
- 7・24　文月華と茶の会　西脇日本へそ公園
- 9・7～12　夏期講習会　神戸国際会館
- 9・29～10・4　関西国際空港開港記念　'94いけばな新進作家展　大阪そごう
- 10・30　日本いけばな芸術展　京都高島屋
- 11・1～2　ネパール王国いけばな文化使節団　家元外12名参加
- ネパール花展　アイソリア王妃をお迎えして　ネパール・ブルースターホテル
- 11・1～3　西脇市いけばな協会花展　西脇市民会館
- 11・2　山田公民館文化教室いけばな展　山田公民館
- 11・2～3　中町いけばな展　ベルディホール
- 11・3～4　'94明石市芸術祭創立25周年記念いけばな展　明石市民ホール　山電明石駅共用コンコース
- 11・5～6　小野市いけばな協会展　小野市民会館
- 11・10～15　兵庫県いけばな協会展　神戸大丸
- 11・26～27　燦の会20周年記念花展　生田神社会館

1996

平成8年

- 1・3～9　96新春を寿ぐ「ゆう」いけばな展　神戸大丸
- 1・12～18　新春いけばな展　葺合文化センター
- 1・14　新春のつどい　ベイシェラトンホテル
- 3・6～11　第29回サンケイいけばな女流芸術展　大阪そごう
- 3・7～10　加古川市いけばな協会花展　加古川市民会館
- 3・15～16　小野市いけばな協会花展　小野市民会館
- 5・23～28　いけばな神戸展　神戸大丸
- 7・21　夏期講習会　丹波焼　土と共に　丹波立杭陶の郷
- 9・4～9　96いけばな新進作家展　大阪そごう
- 10・3～6　第7回いけばなインターナショナル世界大会花展　名古屋国際会議場
- 10・5～6　社中展（岸本良風）中町稲荷コミニティセンター
- 10・17～22　兵庫県いけばな協会展　神戸大丸
- 5・25～30　いけばな神戸展　神戸大丸
- 5・25～30　ネパールいけばな親善使節写真展　神戸大丸
- 5・29～31　フェニックス兵庫県美術展　県民アートギャラリー
- 7・10～17　第29回日本いけばな芸術展　大阪高島屋
- 7・23　夏期講習会　神戸産業振興センター
- 10・12～17　日本いけばな芸術大阪展　高島屋
- 10・21～22　佳生流家元親子孫三代展　生田神社会館
- 10・26～31　兵庫ふれあいの祭典　いけばな展　神戸大丸　西脇カルチャーセンター
- 10・30　秋期免状授与式　家元教場
- 11・4～7　明石いけばな芸術祭　明石市民ホール
- 11・10　第23回いけばなインターナショナル神戸支部　デモンストレーション　神戸クラブ
- 11・11～12　研美社展　大阪美術クラブ
- 12・16～17　第12回炎の会展　京都光琳閣
- 雲華小作集発行

11・1～4 ●西脇市いけばな協会展　総合市民センター体育館
11・2～5 ●明石市いけばな協会芸術祭　明石市民ホール
11・3～4 ●中町いけばな協会展　中町ベルディホール
12・26～ ●新春ウインド大作出展　川西阪急百貨店

平成9年

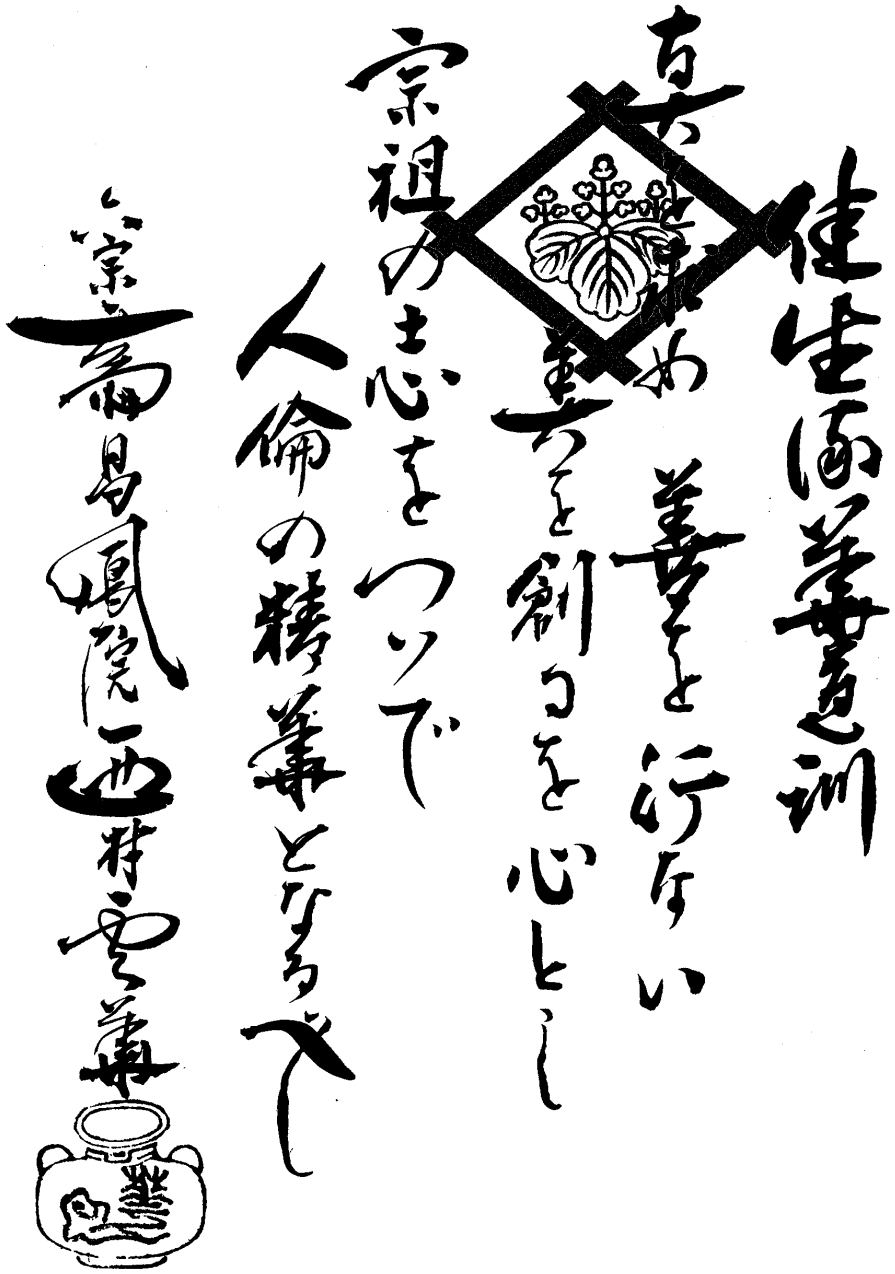
1・19 ●新春のつどい　ベイシェラトンホテル
2・19～24 ●サンケイ女流いけばな展　大阪そごう
2・28～3・3 ●「ゆう」花展　ホテルオークラ
3・7～10 ●加古川いけばな協会展　加古川市民会館
3・13～18 ●日本いけばな芸術協会展　大阪高島屋
4・13 ●家元　兵庫県文化賞受賞記念碑建立　除幕入魂式
播磨中央公園
4・17～19 ●いけばなインターナショナル展　相楽園
4・27 ●春期免状授与式　徳光院
5・8～13 ●兵庫県いけばな協会展　神戸大丸
5・10～11 ●選抜いけばな展　兵庫県公館
7・27 ●夏期講習会　ハーバーランド、ダイヤニッセイビル
8・3 ●七十周年記念花展準備委員会　家元教場
8・24 ●七十周年記念花展出瓶者総会
9・4 ●ヌワコット「佳生流トレーニングセンター」起工式
カトマンズ市郊外ヌワコット村
10・1～6 ●創始七十周年記念花展併催家元西村雲華回顧展　神戸阪急ミュージアム

昭和30年（一九五五）から平成9年（一九九七）までの一部の記録です。

数人の委員が記録収拾に努力没頭いたしましたが、資料散逸のため真に不備極まる年表となりました。

これは、ひとえに私達の力の及ばなかったことと深く後悔しております。資料ご提供くださいました家元はじめ諸先生方ありがとうございました。

年表委員一同（一九九七・七記）



初代家元
西村 翠雲師

虹の糸ー初代西村翠雲先生を偲んで

相談役 上月 翠芳

翠雲先生の門を叩いてより離れることを知らないまま六十年の歳月が流れましたが、不思議と四季折々のことが鮮やかによみがえってまいります。初代翠雲先生は、まことに温厚で飄々としたお姿で鼻下にお髭を蓄えておいでになりました。あの頃といたしましては常に時代の先端を歩まれ長靴を履いたり、時にはオートバイ（ハーレ二〇馬力）に乗られ西脇より姫路までお稽古に出かけられました。また、和服に袴前掛で華道ならびに煎茶（売茶栖竹流）のご指導をしていただきました。立礼をとり入れられ、日々履きます足袋を縫うことまでも心安くお教えいただいたことなどもなつかしい思い出です。

また、大変ご器用な先生で、花止めの改良や水上自転車等の専売特許も申請されたようにお聞きしております。

遠い昔の虹の糸を繰れば無限に延びますが、昭和三十一年八月脳底出血のため急逝されました。ありし日をなつかしく思い出しております。

佳生流発展のためご尽力いただいた今は亡き先生方

故藤井豊光先生を偲んで

理事 小澤 佳永

今年も先生の嫌な夏が来ました。お名前の如く豊かに光り輝いたオツムが暑くて困っておられたから…。それでもお元気な間は、自転車で何処迄もお出掛けでした。その自転車に手塩に掛けて育てられた野菜を積んで西脇の先生方のお宅を一軒一軒廻って、「いけばな協会」発足の為に尽力され、お蔭で今日を迎えられたと古参の先生から聴かせていただいたのは恰も今年の六月でした。

晩年出稽古の送迎の車中の先生の自慢話は、先代家元翠雲先生と共に当時「新日本華道」であった佳生流の発展の為に、私欲を忘れ自転車で奔走されたと云うことでした。当時を想い出されるのか、嬉しそうに語られた先生のお顔が今でも浮かんで来ます。

そして次に「人に教えるようになったら、上手な人に習わないといかんよ。初心者の花を見てばかりだと、自分が下手になるから…。そしてどんなに下手にいけてる花でも決して沢山抜き取って直してはいかんよ、直された人はいけ花が嫌になるから…。」と何度も教えて下さったものですが、当時教える気の無かった私は「ハー、そうですか。」と聴きながしていました。

不肖の弟子は悪戦苦闘して今日に到り、豊光先生の偉大さに頭が下り、情の深さを身にしみてありがたく感謝の気持ちで胸が詰まります。伸々難しい世界で、今日はやめようか明日は…。と悩みつつ迎えた「創流七十年。」去来するは、「先生ごめんなさい！先生の足跡を一歩も踏めず、御恩報謝の真似事さえも。」の思いです。

亡き池田昭風先生を偲んで

家元理事 荒田 圭芳

先生との出会いは、いけばなでございました。その当時、流の発展のため色々とご尽力していただき、力強い精神力の反面、女性らしく優しい人柄と、人徳を持っておられた昭風先生に強く惹かれていました。

先生と私は、昭和四十六年に最高の権威のある日本いけばな芸術協会特別会員として、共に入会いたしました。四十七年五月には、第六回日本いけばな美術展（大阪高島屋）が開催されました。初めて大花展に先生と私は出瓶しました。名誉総裁高松宮妃殿下の御巡覧賜り、出瓶者一人ひとりの作品の前での記念写真、この上ない光栄であり、先生と私は共に感激いたしました。又、先生は四十八年五月、九州展（福岡岩田屋）にも出瓶され、私は助手としてお手伝いいたしました。四十九年六月、神戸、リガ市姉妹都市提携いけばな部門文化使節として参加され立派にいけばな親善を果たされました。七月には、東京椿山荘において、東西合同全国総会に、先生と私は共に出席する等、先生の積極的な行動と責任感の強さに感銘させられました。又、家元先生のご指導のもとで、いけばなの研究に励まれ、進んで行事等にも参加される意欲には頭の下る思いが致しました。私は、先生の志を受け継ぎ、地域社会に伝統あるいけばな芸術の輪を広めてまいりたいと思っております。

心から先生のご冥福をお祈り申し上げます。

故河合三雲先生をお偲びして

家元理事 加藤 昂華

昭和五十七年十二月、先生は傘寿の記念に随筆集「花の心」を出版されました。つづいて「葛の花」「あきないと禅」そして平成三年卒寿を期に「馬酔荘閑話」を、明治、大正、昭和、平成と四代を生きられ、何か残したいとの著書で節目を大切に、そして死を見つめてのご生涯の深い人生観も私共に示して下さいました。

私の県一高女時代に、たまたま伯父の経営する会社と同じビルのテナントの昭和実業の社長であられ、お名前はその頃より存じ上げていました。財界の名士との交流、社会奉仕、茶華道、禅の心の探求、早朝登山などから豊かなお心の持ち主であったことが伺われます。

特に理事長時代に頂いた物の一つに「のりこぼし」と云う造花の椿が印象深く、「東大寺二月堂水取りの頃、毎年僧侶たちによって手作りされた赤白の和紙を花びらに切り、黄色の仙花紙を匂ひおしべに切って、野性のたらの芯軸に巻きつけ、何のてらいもなく成形された椿」と先生は記され、「巧まざる素朴さが、人の心に乗りうつるのでしょうか、椿の艶葉とのりこぼし、具象と抽象、実と虚、そこに調和の美、心のふる里に帰ったような安らぎを覚えさせてくれます」と。この文章を読んだら、様々なことにこの対比を当てはめて、しみじみ先生の造詣の深さに感じ入りました。

早朝登山の身仕度のまま研究会に出席されることが多く、色々な苦難を乗り越えられた方とは思えないあの温顔が、センス溢れた装いと共に彷彿と浮かんでまいります。

◇◆◇

七十周年にあたり
今亡き諸先生方の冥福を
謹んでお祈り申し上げます

今は亡き小高裕華先生を偲んで

家元理事 高橋 恂華

私事でございますが、主人の勤めの関係で昭和三十七年から十数年余り他府県を廻っておりましたので先生の神戸支部長時代の積極的な活動は当時発行されたいけばな画報でしか偲ぶことが出来ません。

昭和四十五年、私が京都に戻りお付合いが始まりました。先生が小学校の教員をされていた時、花展でお家元先生のお作品を見せて頂き、現代を先取った一歩進んだ魅力を感じて入門したのだと話しておられました。研究会や会合には品よく和服を美しく着こなされて出席されました。又、時間を守る厳しい一面をお持ちでした。先生の上品な物腰の中の揮然とした態度は私の憧れでした。同期に入会したいけばな芸術協会の花展にも度々ご一緒させて頂きました。先生は「投入れ」がお得意で今でも竜に〝なんきんななかまど・芍薬〟をさらりと活けられた作品をなつかしく思い出します。

晩年とくに茶道を楽しまれ、桔梗会のグループ社会的にも知識豊かな方達と、芦屋クラブでの茶の湯を楽しまれ私もよくお伴させていただきました。これも今となってはなつかしい思い出です。震災後名古屋に転宅され平成九年三月四日御永眠なさいました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

役職プロフィール

平成９年９月現在の役員です。なお誌面の都合により、役職者以外の教授者は省略いたしました。

（五十音順）

荒田圭芳

いけばなを始めて約五十年、年月のたつのは早いものです。

四季折々の花と接することで、心のやすらぎを感じ、豊かな心で後進の指導に、又、いけばなの道に精進してまいりたいと思っております。

池添翠節

社中と共に花より学ぶ美しい心を大切にして参りました。古い社中は師範を頂いて教室を持って居ります。親師匠としてこんな喜びはありません。これからも花と共に楽しい報恩の日々を送りたいと思っております。

宇仁菅偕苑

入門（昭和二十九年春）以来四十四年間何の迷いもなく歩んでまいりましたが、道を極めることの難しさをつくづく感じている昨今です。奥の深い道だからこそ生涯かけて学ぶ意義があるのだと思うのです。

内海渓翠

振り返ればずい分長い年月をいけ花を趣味として来ました。そのお陰で多くの出会いがあり、良き友を得ました。これからも心やさしくゆとりある気持ちを忘れずに、限りある人生を花と共に生きていきたいと思います。

小澤佳永

植物は人間の出す毒素を吸収してくれる。花はホルマリン系を、木は多種の毒素等を手分けして吸収していると、ナサの研究で判明したそうです。いけ花は人間生活にとって最高ということになります。

尾立洋光

今は亡き藤井豊光先生には『光の一字を』いただき、美馬先生には厳しさを、池田昭風先生にはやさしさを、今は家元先生、副家元先生のご指導により学んでいます。流花を多くの人に知ってもらいたく励んでいます。

扇　紀代華

あの忌まわしい阪神・淡路大震災から、早や二年余りが過ぎました。あの年は桜の花の満開が、目にも心にも入りませんでした。去年・今年の美しく咲いた桜がとても嬉しく、生かされていることの幸せをしみじみ感じました。

加藤昂華

お家元のご指導のもと、私たち門人も精進を重ね、その結晶が蓄積され本年は七十周年をむかえました。大いなる慶びを覚える昨今です。

来年にむかって飛躍チャレンジ精神をもやし、ますますの繁栄を願っております。

陰山敏華

慶祝の七十周年生き遭いて先ずは喜ぶ
複雑な人との関わりされど無に浸れる時よ花
との会いは
無の心花との出会い慈しみわが残生を豊けく
生きむ

釜鳴登華

平成七年一月の地震による瓦礫の下から萌え出した草木からも私たちは生きる勇気を与えられました。すばらしい生命力を秘める植物と共に、より美しいものをつくり出していく「いけばな」を学ぶ喜びをかみしめております。

川崎正雲

昭和三十八年十月、高橋先生に師事を受けました。三年後、ご主人の栄転により他県へ移られました。その後は月に何度か家元先生のご来駕のご指導を受けました。昭和五十六年愛知県扶桑町で教室を再開し現在に至っております。

岸本良風

「花の心を活ける」ことは私にとって永遠のテーマです。花そのものを活かし、見る人に感動を与えることができるか。学びながら手探りの花の道をどこまで進むことができるか。〝私の生涯のテーマです〟。

小西杏花

私は趣味として何もわからないままに、お家元の教場に通っていました。

その内、家元が考案された花型に魅せられるようになりました。現在の新潮格花です。いけ花とは素晴らしいものだと感動しました。

木挽早華

花には言うまでもなくさまざまな大きさや形、色があり、それぞれに存在を主張している。そんな花材を手にして、花器との調和を考えながら花をいける時が私には一番楽しい落ち着く時間である。

上月翠芳

田舎育ちの私は結婚後まもなくご近所付き合いも分からないまま、先代家元翠雲先生のご指導をあおぐことになり周囲に気がねしながらも週一回のおけいこは楽しく、活けかえる度に主人も関心を示してくれ励まされました。

榊　美華

神戸から、美しい城下町の赤穂へ帰って五年たちました。

佳生流創始七十周年の記念すべき年に、赤穂支部を新設し、生け花のよさを共に学び、楽しみたく思っています。

笹倉朝翠

私は同じ出生地である先代翠雲先生にご指導を受けました。先生亡き後、現家元雲華先生に引き続き新しいいけ花を学んでいます。しかし今だに習得できません。佳生流発展のために頑張っていきたいと思います。

招　瑞華

日本伝統美のいけ花に憧れ、お家元先生のご指導のもとで、「光陰矢の如し」四十有余年の歳月が経ちました。大震災にも屈することなく頑張っております。これからも一層空間美を大切にした造形を追求していくつもりです。

瀬良弘風

「花」との対話を作品に反映させていくことが大切です。

華道というものは活け上った作品よりも活けるプロセスが大事なのです。そうすればおのずと自分を表現出来ると言うものです。

高井翠花

一九九四年春、南フランスはカンヌ、映画祭で有名な会場に桜と松の大作、私のオリジナルドライフラワーを採り入れた作品を展示、デモンストレーションも大勢の観客に好評を博し、海外活動を是非もう一度と希っています。

高橋恂華

四季折り折りの花の美しさ、自然の草木の根強さに魅力を感じ入門致しました。お稽古を重ねる度に、新たな感性、造型美を発見し、正に一生の勉強だとつくづく感じている今日この頃でございます。

土田雅風

中学生時代手にした三十五周年記念集。あの頃から三十五年、「いけばなをされてていいですね」とか「文化がある」とか、身に余る言葉を頂くたびに佳生流を縁として歩んできた幸せをかみしめています。

鳥飼弘月

佳生流に入門して三十数年、その間古典花を基調としながら、次々と新しい花型を生み出されるエネルギッシュなお家元に魅せられ、お花の勉強と共に人生の機微も学ばせていただいております。

名越和花

毎日慌ただしい日々を送っている私ですが、仏様に生花をお供えし、数ヶ所の床の間に花をいけるのが日課です。その時この上もない心の落ち着きを覚えます。一輪の花との出会いを改めて感謝したい気持ちでございます。

根角美江華

昭和三十年、三越の花展で山口芳華先生の新潮花に出会って感動し入門しました。それ以来新潮花の大ファンです。

これからも大好きな新潮花の稽古を積み重ねたいと思っています。

長谷川紫鈴

私は新聞のガイド欄の行楽案内の花の咲く所を訪ねることにしています。

最近では大屋町の水芭蕉群・名草神社のざぜん草。佐用町の石楠花の里等です。「花をたづねる」人生を心の糧にしたいと思います。

秦　千華

美しい花、ひかえめな花、花を通していろいろな出会いを、家元先生はじめ皆様方に学ばせていただきました。二十一世紀に向って多くの人々に佳生流のいけ花を、愛してもらえるよう努めていくつもりです。

服部泰華

神戸高校華道部で、ブリキの水盤に花を活けてから五十余年、家元先生のご指導を頂いています。関東地区は広域のため支部の活動が難しく、正月花の研究会、家元先生が上京される都度たのしく集っています。

藤本梅風

創始七十年人生では古希を祝う年です。移りゆく世の中でも花を求める人の心は変りません。花の心を愛し自然より学ぶことの楽しさ、人との出会い生きるよろこびを大切に、佳生流の発展に活躍できればと念願しております。

船橋律華

「初心を忘るべからず」と思いながら数十年…。人と人とのふれあい、花の心を忘れずに、華の道を我が道と思いながら今日まで過ごしてきました。二十一世紀に向って、ますます頑張っていきたいと思っています。

松場美翠

四季の変化に移りゆく庭の木々を眺めながら、二月に他界した母を想い人生のはかなさを感じています。憶えば小学生の頃より数十年、ひたすらに華の道を勧めてくれた、亡き母に感謝する今日この頃でございます。

山本司雲

思えばいけばなを始めて四十数年、一輪の花に心をひかれています。

ここ数年は多忙をきわめて、ゆっくり花に親しむ余裕がないのが残念です。七十周年を機に心新たに花との時を持ちたいと思います。

佳生流七十年のあゆみ

発行日　平成九年十月一日

編集・発行　佳生流佳生会
家元　西村雲華
兵庫県神戸市中央区野崎通三丁目三―二一
TEL　〇七八―二二一―六二三九
FAX　〇七八―二二一―六二六六

印刷　ウニスガ印刷株式会社
兵庫県西脇市野村町大坪四七一
TEL　〇七九五―二二―三二二六
FAX　〇七九五―二三―六二二九